

「今後の学校のあるべき姿」に関するアンケート
調査結果について

令和5年1月
豊橋市教育委員会

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. 調査概要 | |
| (1) 目的 | 3 |
| (2) 対象者等 | 3 |
| (3) 調査結果の見方 | 3 |
| (4) 学校規模の考え方 | 4 |
| 2. 調査結果 | 5 |
| 3. 自由意見 | 31 |
| 【参考】 就学前児童保護者調査結果 | 38 |

「今後の学校のあるべき姿」に関するアンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 目的

本調査は、今後中長期的に児童生徒数が減少していくことが見込まれ、新型コロナウイルス感染症の影響により、少子化が加速する懸念があるとともに、学校施設の老朽化が進んでいく状況下において、学校の主役である子どもたちの保護者が、どのような学校環境での教育を望んでいるかを調査し、今後の学校のあるべき姿について、保護者の皆さまと一緒に考えていく基礎資料とすることを目的とします。

(2) 対象者等

| | |
|------|--|
| 調査対象 | 市内小中学校に在籍する児童生徒の保護者全世帯 (小学校：15,221世帯、中学校：9,542世帯) |
| 調査期間 | 令和4年7月12日(火)～7月31日(日) |
| 調査方法 | 学校を通じて配付・電子申請システムによる回答(一部紙回答) |
| 回収状況 | 小学校：7,845件(回答率：51.5%) 中学校：4,163件(回答率：43.6%) |

(3) 調査結果の見方

○比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入により処理していますので、数値の合計が100%にならない場合があります。

○複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

○設問や選択肢については、本来の意味を損なわない程度に表現を変更して掲載している場合があります。

○令和元年度に実施した「小学校のあり方に関するアンケート調査」の設問の中に、本アンケート調査と同様の設問がある場合については、参考として回答状況を掲載しています。

< (参考) 小学校のあり方に関するアンケート調査概要 >

| | |
|-------|-------------------------------|
| 調査対象 | 市内小学校に在籍する児童の保護者全世帯(15,789世帯) |
| 調査期間 | 令和元年5月22日(水)～6月7日(金) |
| 調査方法 | 学校を通じて配付・回収(マークシート方式) |
| 回収状況 | 13,324件(回収率：84.4%) ※無効回答含む |
| 有効回答数 | 12,935件 ※読み取り不可及び全設問無回答除く |

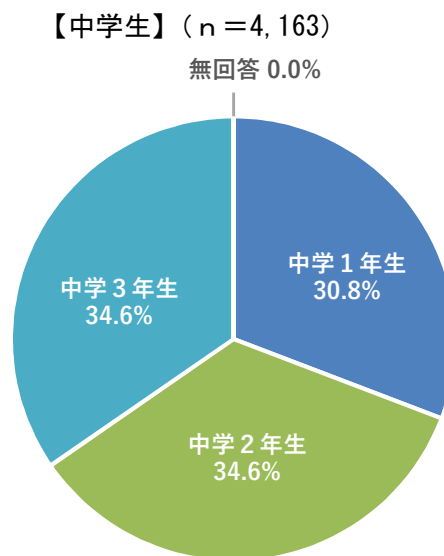
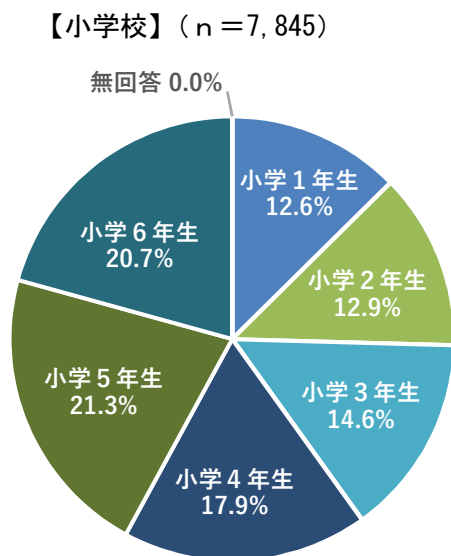
(4) 学校規模の考え方

学校規模別については、文部科学省の分類に基づき、小規模校は11学級以下、適正規模校は12～18学級、大規模校は19学級以上で区分をしています。下表は、令和4年5月1日時点の学級数で学校規模を分類したものです。

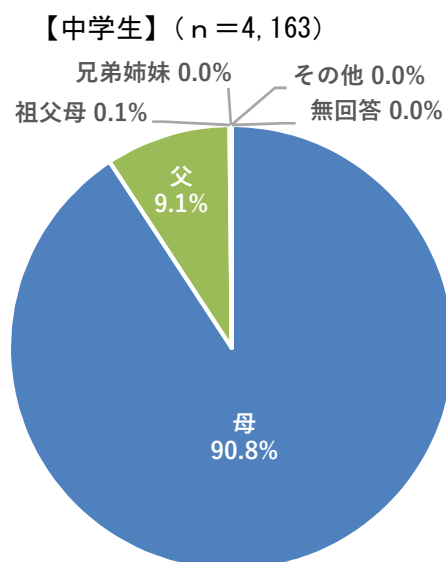
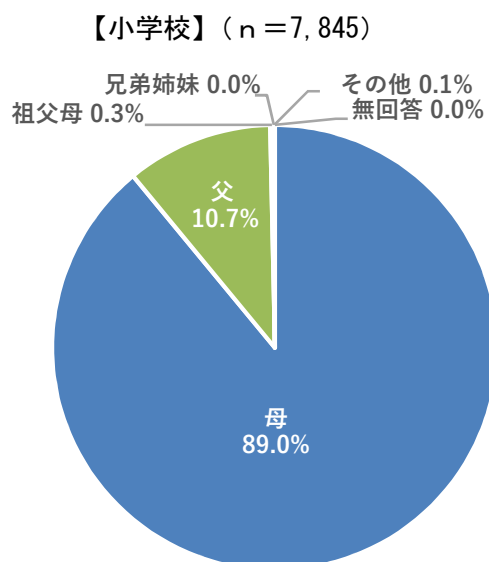
| 規模 | 小規模（～11学級） | 適正規模（12～18学級） | 大規模（19学級～） |
|-----|---|--|---|
| 小学校 | 20校 旭、石巻、老津、大崎、大村、小沢、賀茂、下条、西郷、杉山、嵩山、高根、谷川、玉川、津田、天伯、豊南、細谷、前芝、松山 | 21校 芦原、東田、磯辺、岩西、植田、大清水、汐田、下地、新川、つつじが丘、中野、野依、八町、花田、羽根井、福岡、富士見、二川、松葉、向山、豊 | 11校 飯村、岩田、牛川、栄、鷹丘、高師、多米、二川南、幸、牟呂、吉田方 |
| | 6校 石巻、五並、章南、豊城、北部、前芝 | 14校 青陵、高師台、高豊、中部、東陽、東陵、豊岡、南陽、南稜、羽田、二川、本郷、牟呂、吉田方 | 2校 東部、南部 |

2. 調査結果

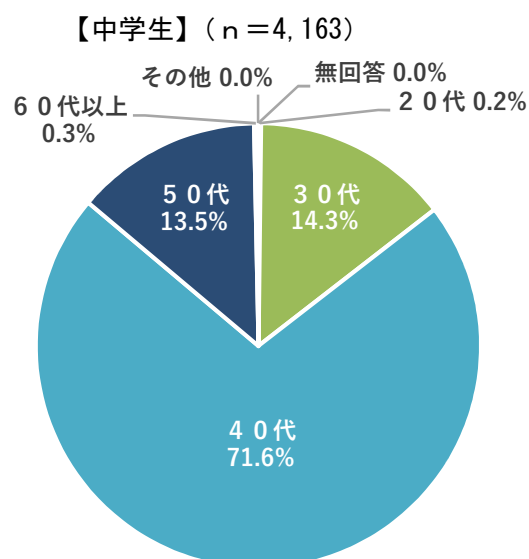
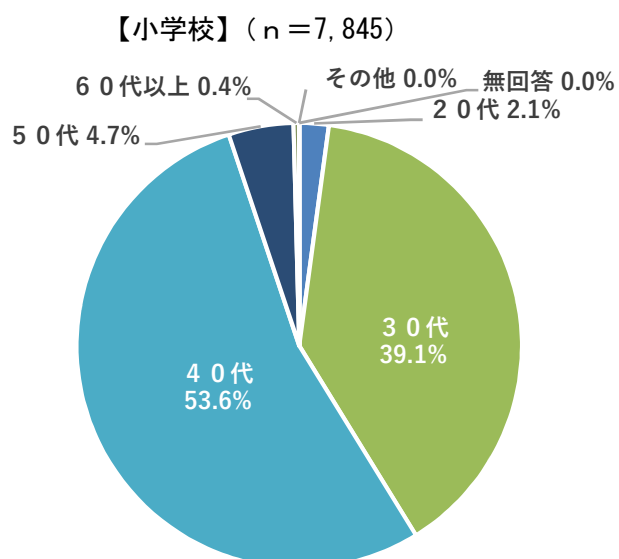
問1 学年



問2 続柄



問3 年齢



問4 学校名【小学校】(n=7,845)、【中学生】(n=4,163)

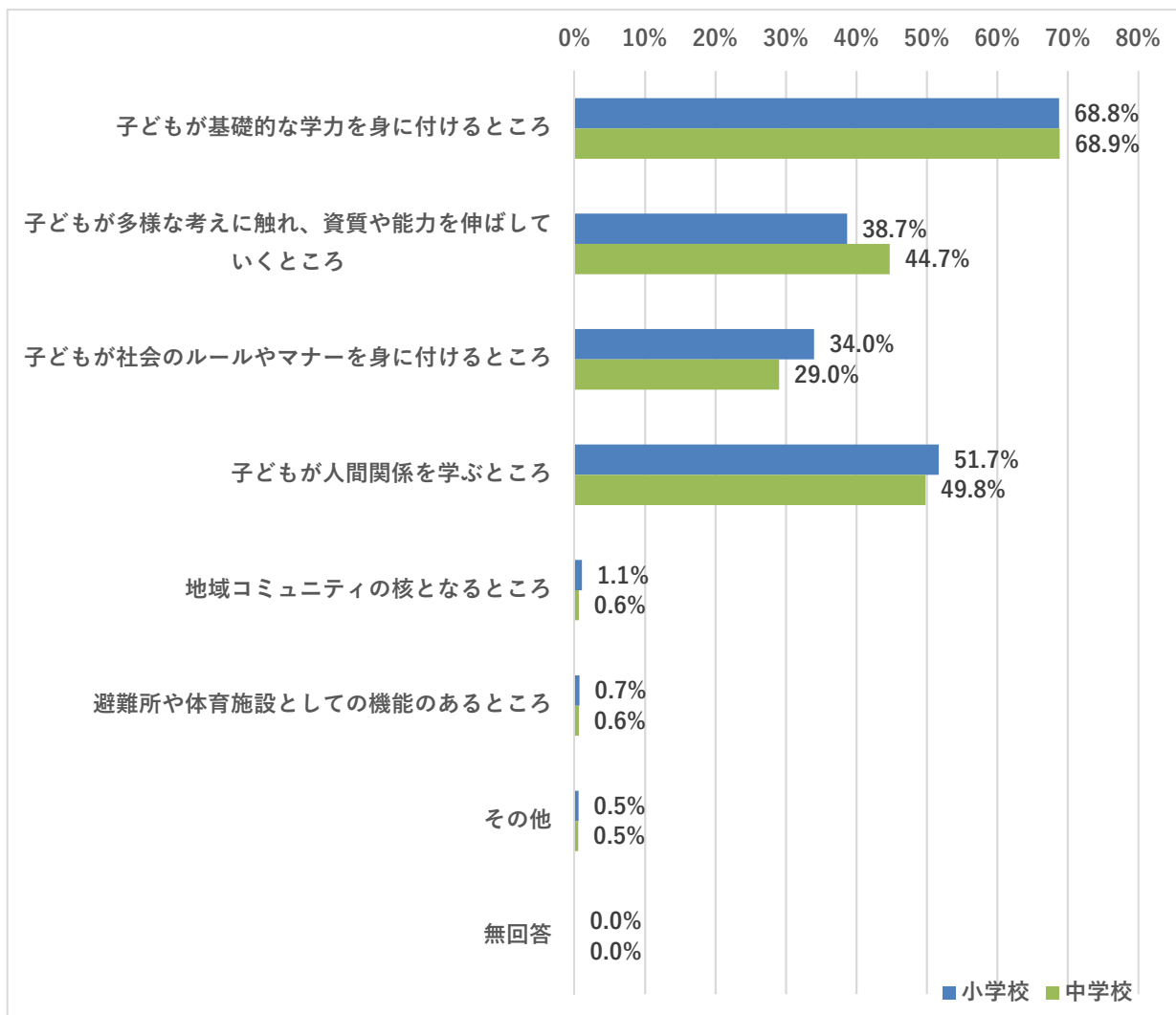
(略)

問5 学校はどのようなところであるべきだと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

小学校では、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」の割合が68.8%と最も高く、次いで「子どもが人間関係を学ぶところ」が51.7%、「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」が38.7%となっています。

中学校では、小学校と同様に「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」の割合が68.9%と最も高く、次いで「子どもが人間関係を学ぶところ」が49.8%、「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」が44.7%となっています。

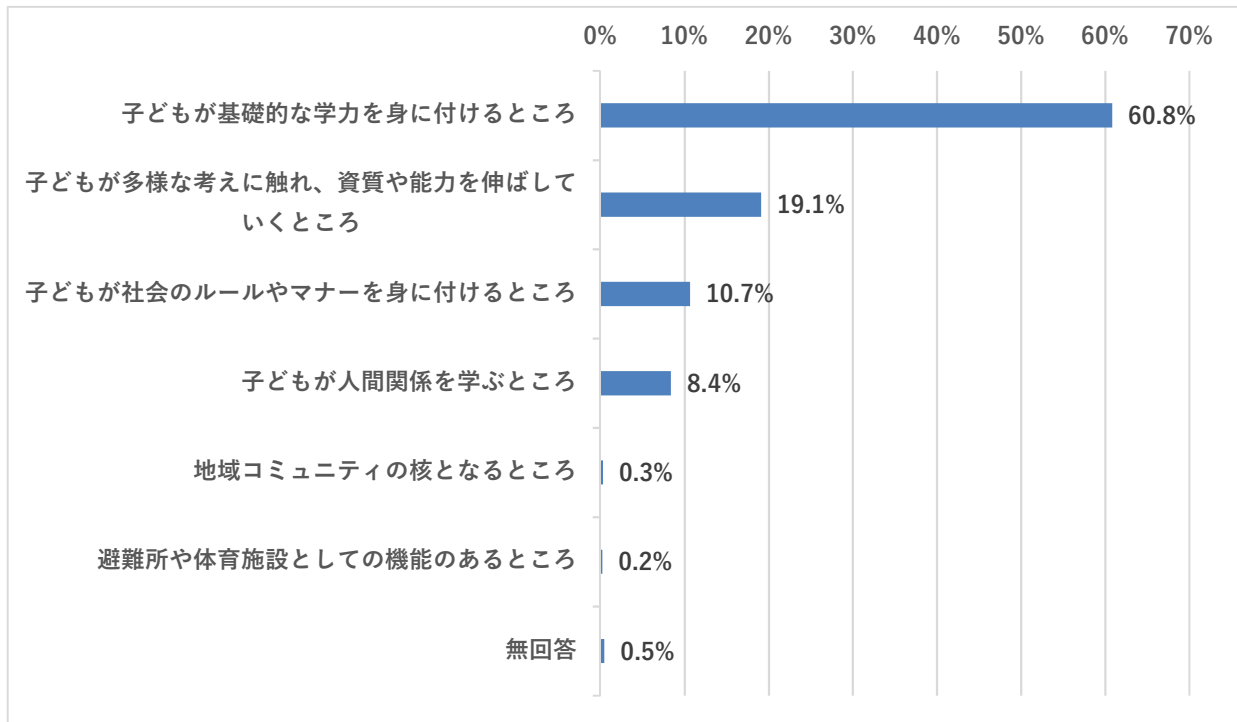
【小学校】(n=7,845)、【中学生】(n=4,163)



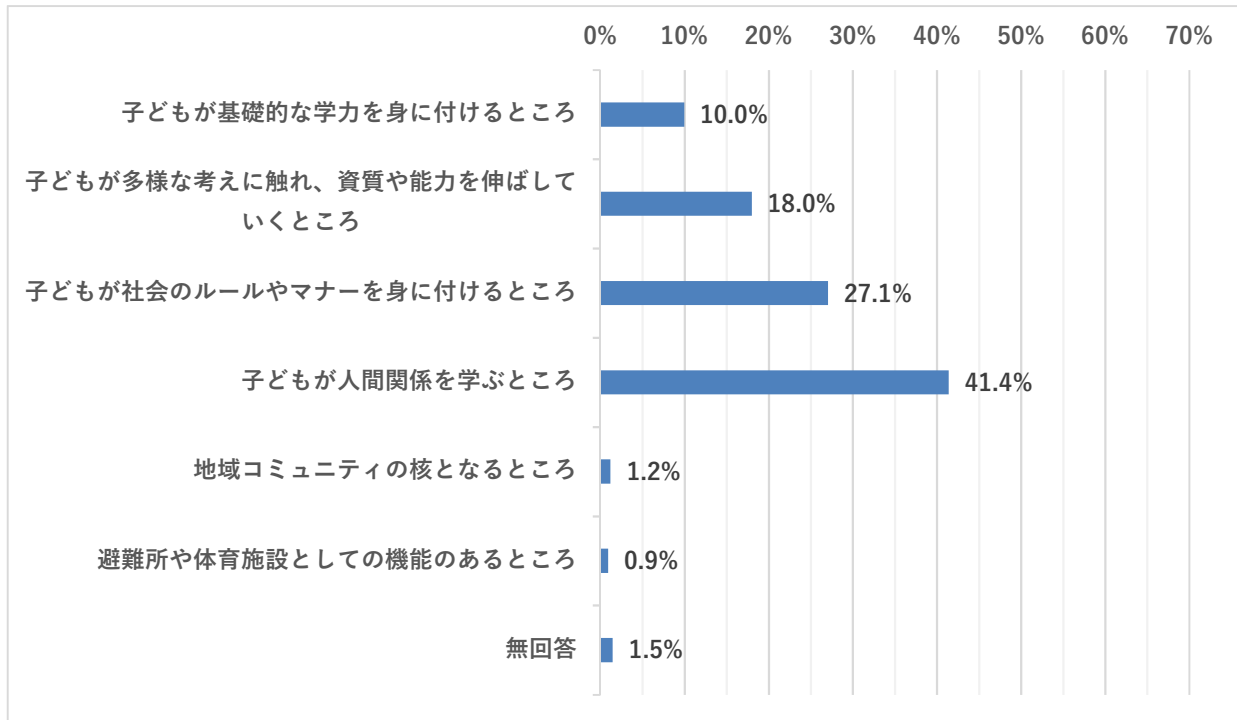
<参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）>

問E 小学校はどのようなところであるべきだと思いますか。（n=12,935）

①最もあてはまるもの



②次にあてはまるもの

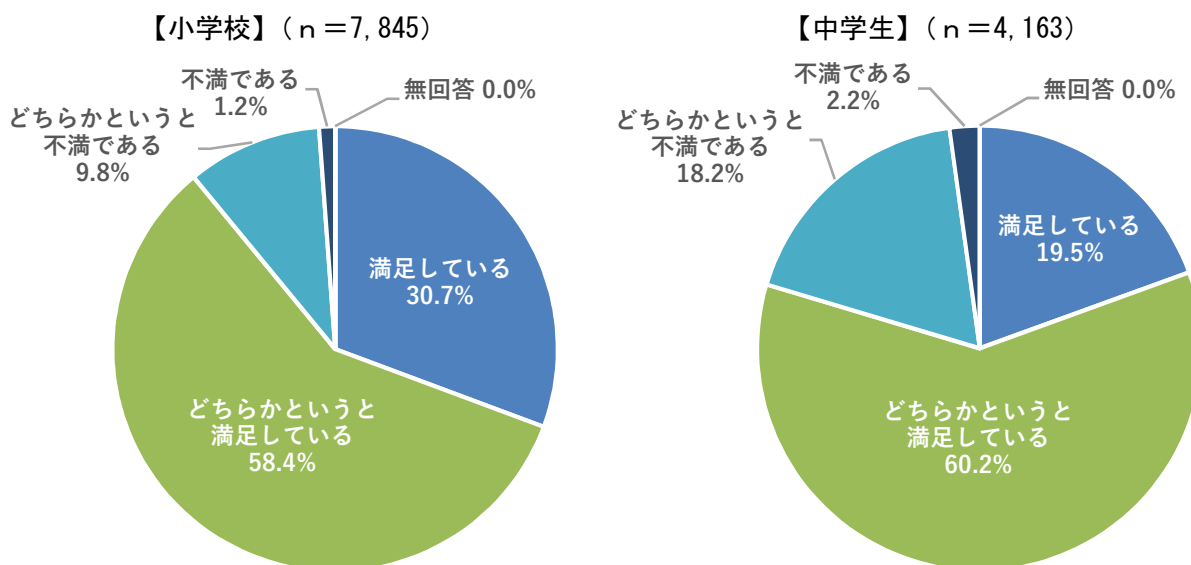


問6 学校のあり方について、各項目に満足していますか。

1. 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ

小学校では、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が89.1%と高い割合となっています。

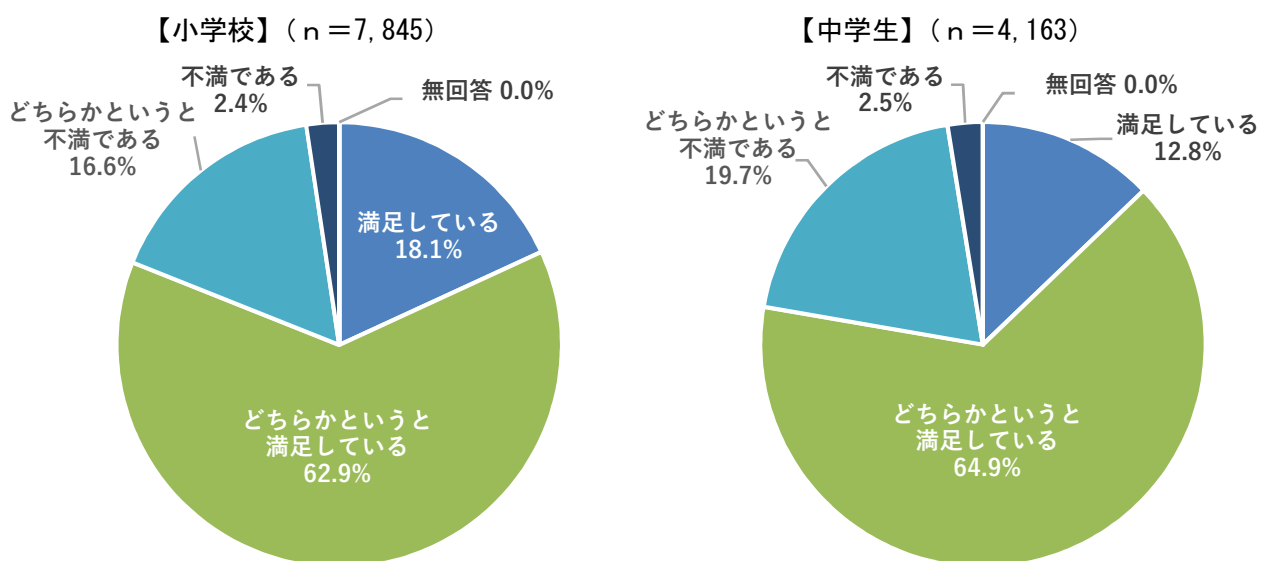
中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が79.7%となっています。



2. 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ

小学校では、「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が81.0%となっています。

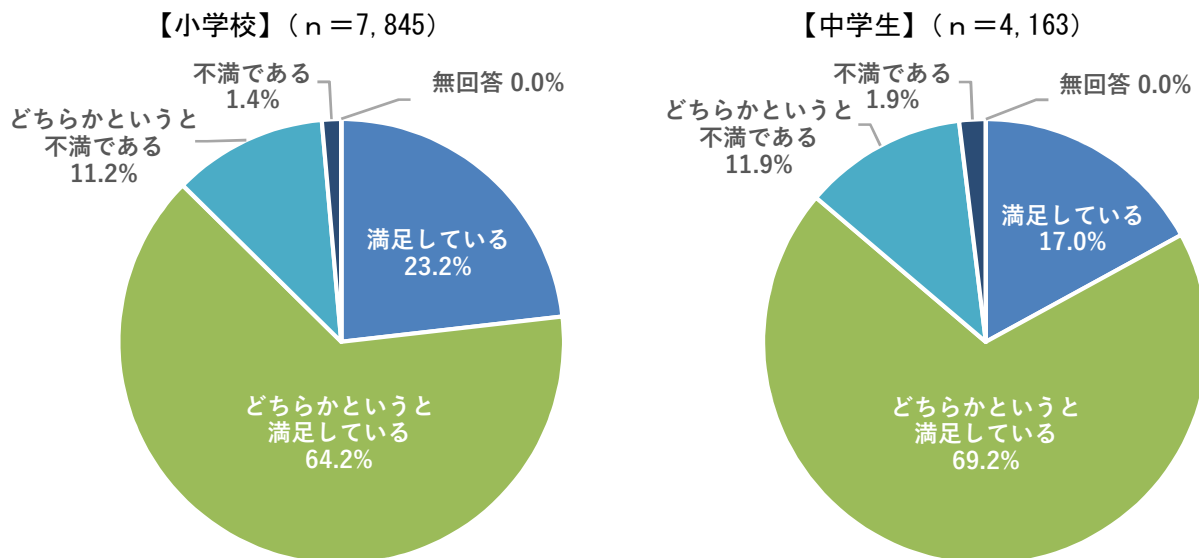
中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が77.7%となっています。



3. 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ

小学校では、「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が87.4%と高い割合となっています。

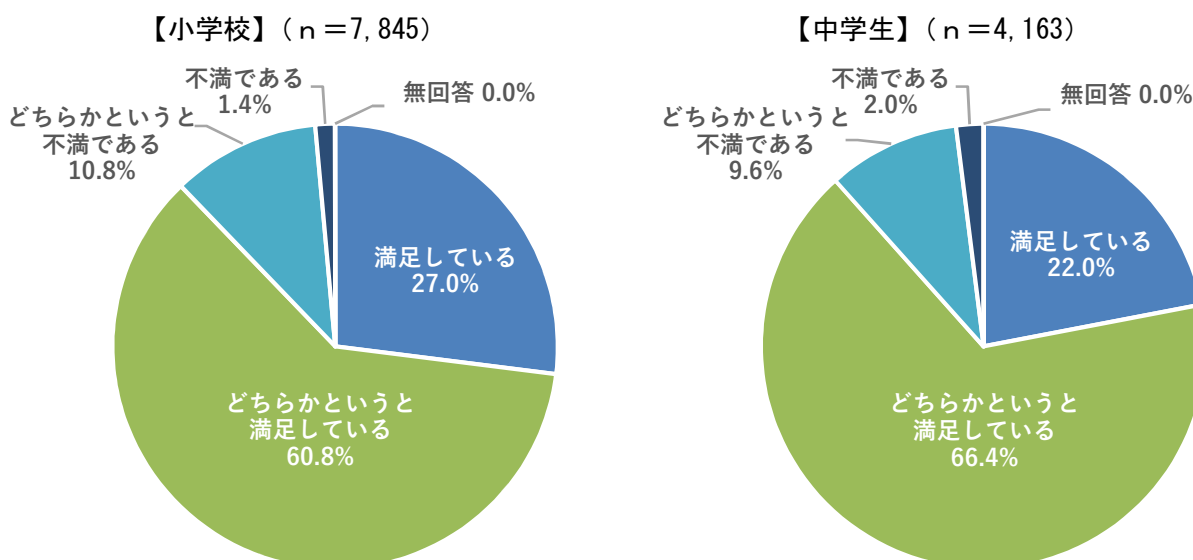
中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が86.2%と小学校と同様に高い割合となっています。



4. 子どもが人間関係を学ぶところ

小学校では、「子どもが人間関係を学ぶところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が87.8%と高い割合となっています。

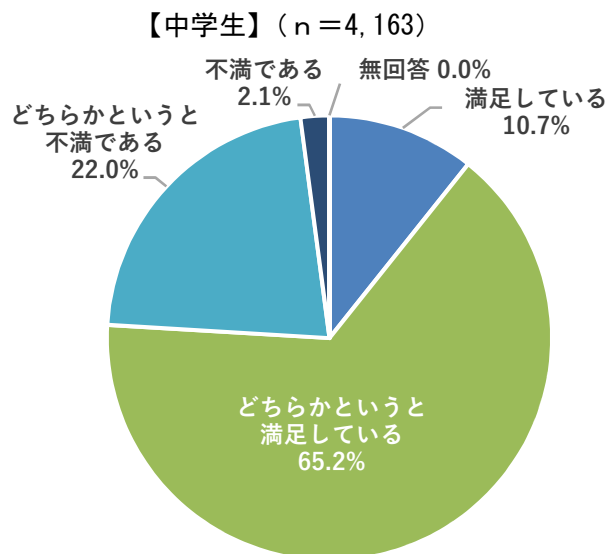
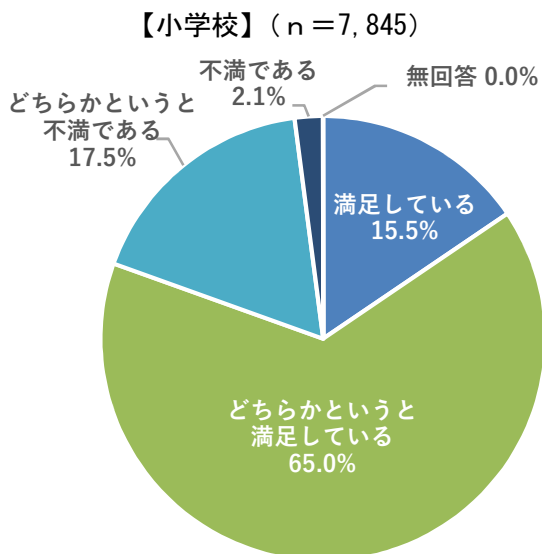
中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が88.4%と小学校と同様に高い割合となっています。



5. 地域コミュニティの核となるところ

小学校では、「地域コミュニティの核となるところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が80.5%となっています。

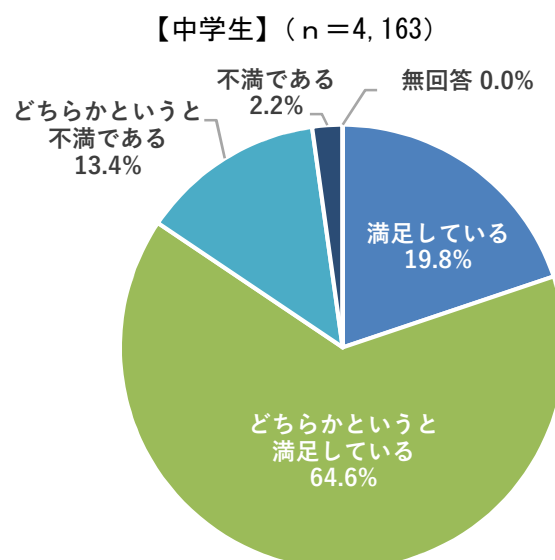
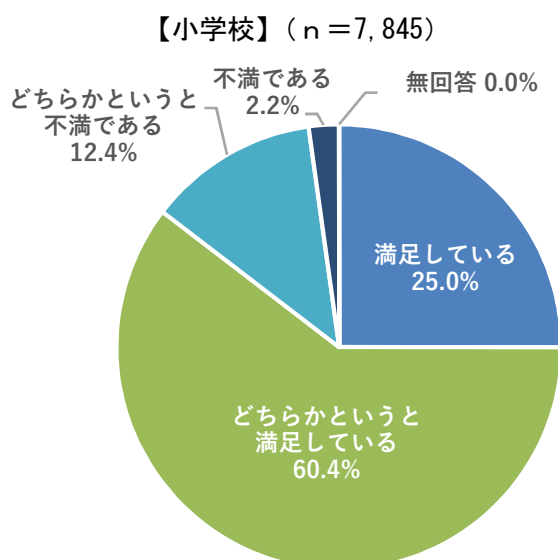
中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が75.9%となっています。



6. 避難所や体育施設としての機能のあるところ

小学校では、「避難所や体育施設としての機能のあるところ」に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が85.4%と高い割合となっています。

中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が84.4%となっています。

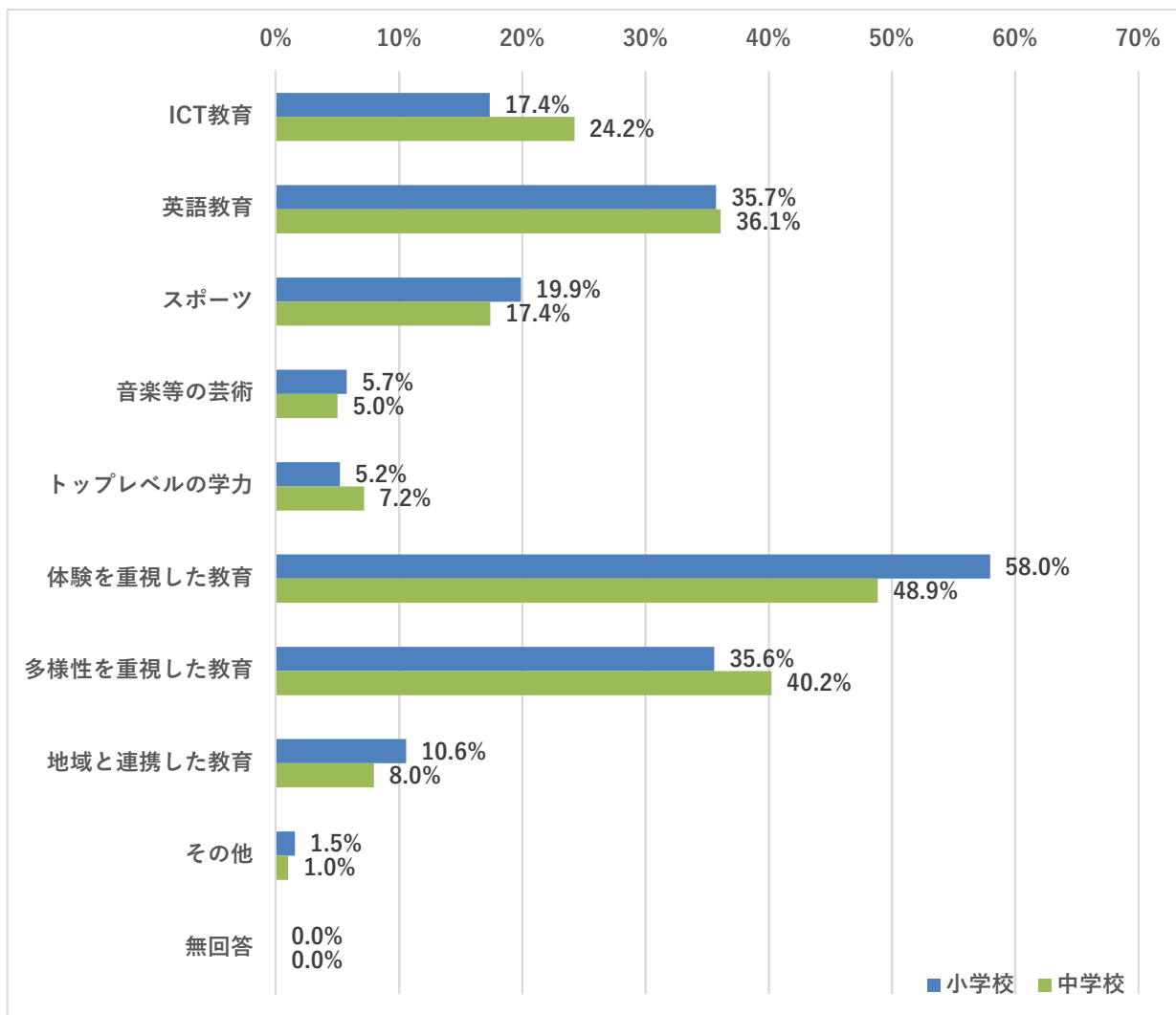


問7 どのような特色ある教育を受けさせたいですか。(最もあてはまるもの2つまで)

小学校では、「体験を重視した教育」の割合が58.0%と最も高く、次いで「英語教育」が35.7%、「多様性を重視した教育」が35.6%となっています。

中学校では、小学校と同様に「体験を重視した教育」の割合が48.9%と最も高く、次いで「多様性を重視した教育」が40.2%、「英語教育」が36.1%となっています。

【小学校】(n=7,845)、【中学生】(n=4,163)

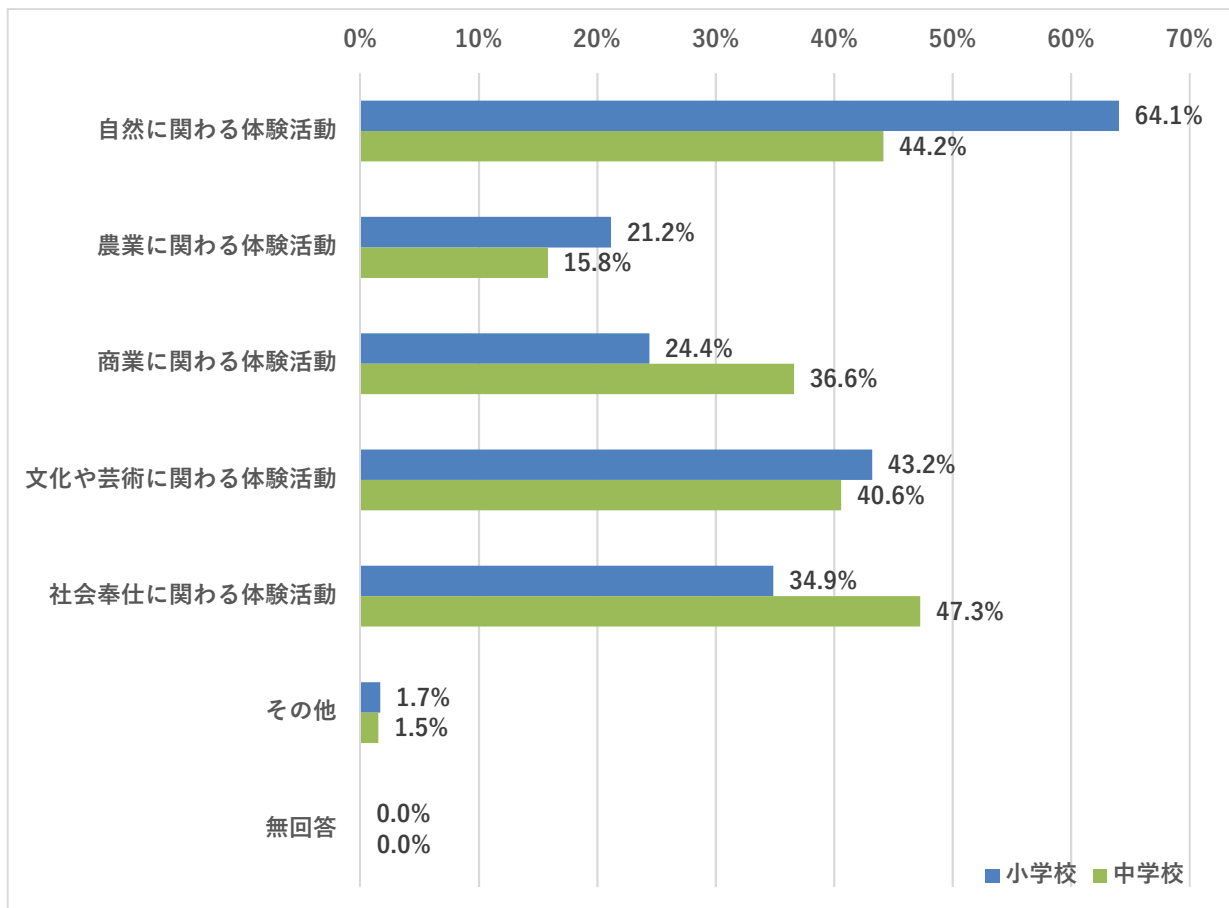


問8 学校においてどのような体験活動が実施されることを期待しますか。(最もあてはまるもの2つまで)

小学校では、「自然に関わる体験活動」の割合が64.1%と最も高く、次いで「文化や芸術に関わる体験活動」が43.2%、「社会奉仕に関わる体験活動」が34.9%となっています。

中学校では、「社会奉仕に関わる体験活動」の割合が47.3%と最も高く、次いで「自然に関わる体験活動」が44.2%、「文化や芸術に関わる体験活動」が40.6%となっています。

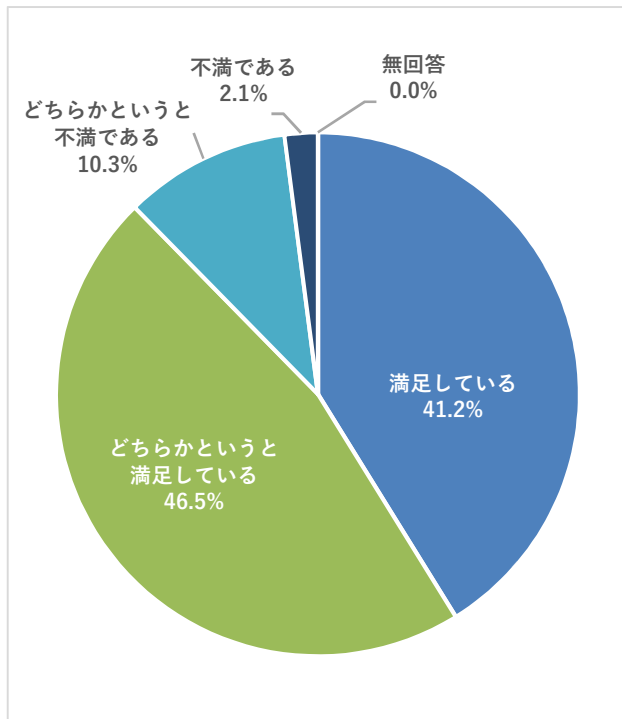
【小学校】(n=7,845)、【中学校】(n=4,163)



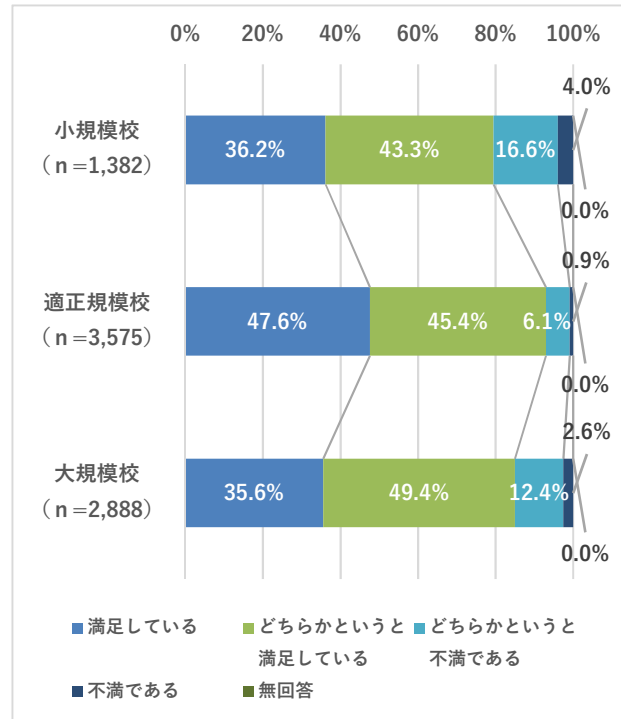
問9 現在通っている学校規模に満足していますか。

小学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が 87.7%と高い割合となっています。学校規模別でみると、小規模校については『満足』が 79.5%となっており、小学校全体よりも満足度が低くなっています。

【小学校】(n=7,845)



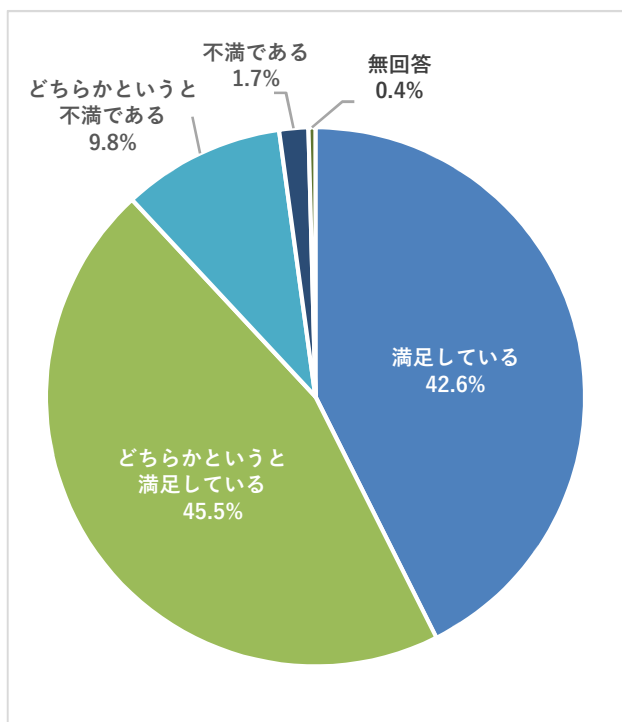
《学校規模別》



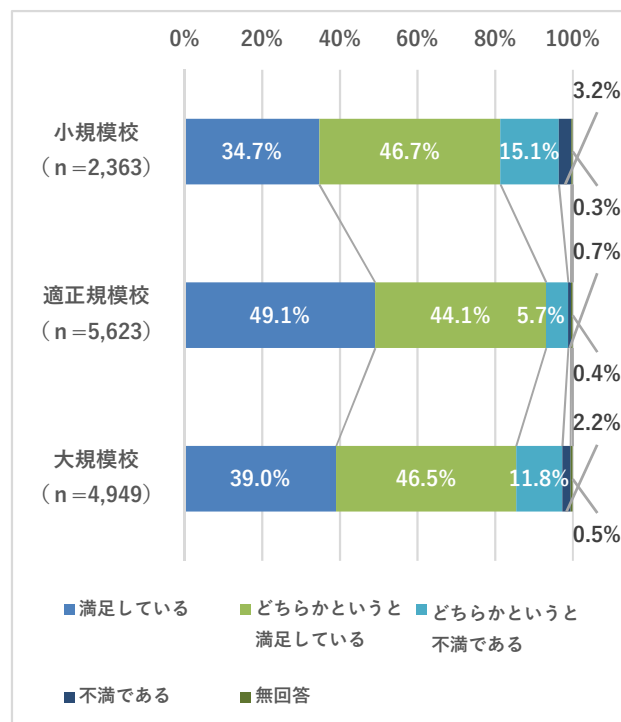
<参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）>

問F 現在通っている学校規模に満足していますか。

【小学校】(n=12,935)

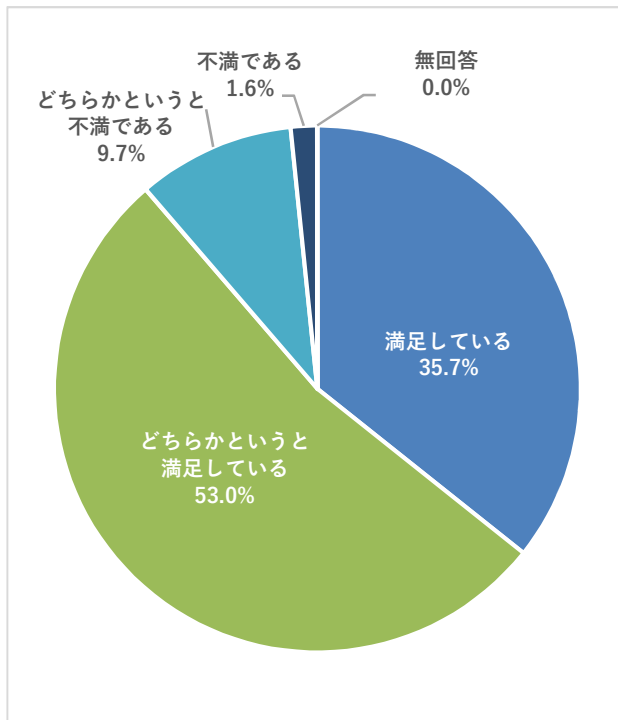


《学校規模別》

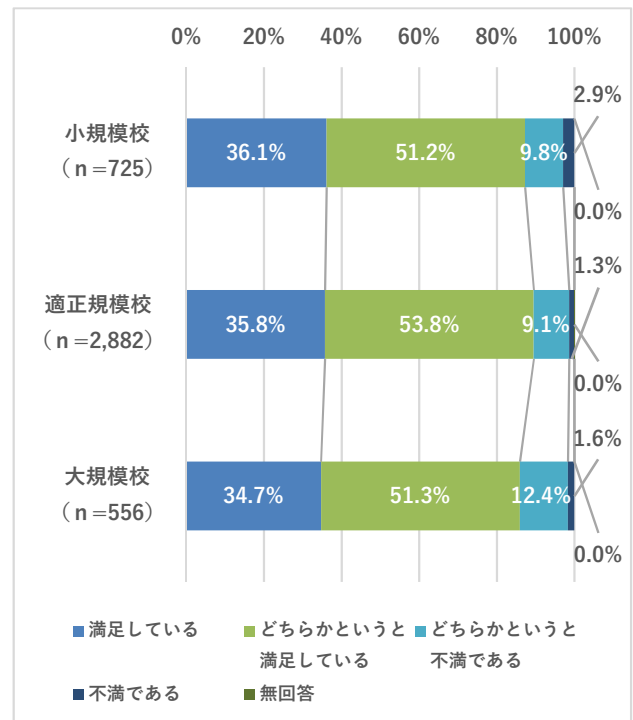


中学校では、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が 88.7%と小学校と同様に高い割合となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、中学校全体とほぼ同様の割合となっています。

【中学生】(n=4,163)



《学校規模別》



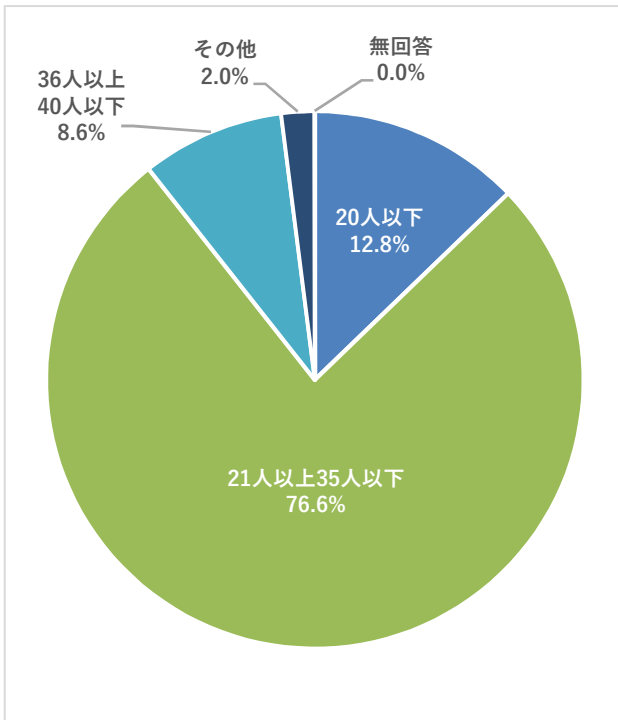
問 10 1 学級の児童生徒数と 1 学年の学級数について適当な数はどのくらいだと思いますか。

1. 1 学級の児童生徒数

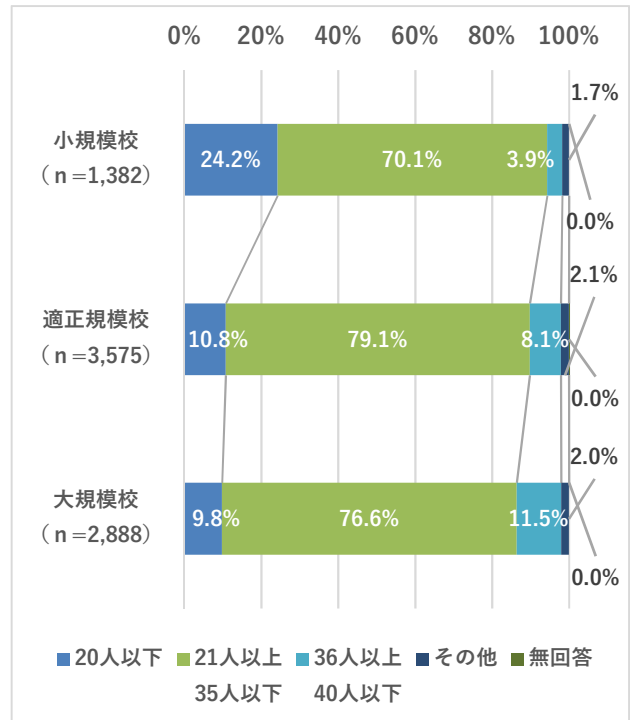
小学校では、「21 人以上 35 人以下」が 76.6%と最も高い割合を占めています。学校規模別でみると、小規模校の「20 人以下」の割合は、他の規模と比較して高い割合となっています。

中学校では、小学校と同様に「21 人以上 35 人以下」が 72.6%と最も高い割合を占めています。学校規模別でみると、大規模校の「36 人以上 40 人以下」の割合は、他の規模と比較して高い割合となっています。

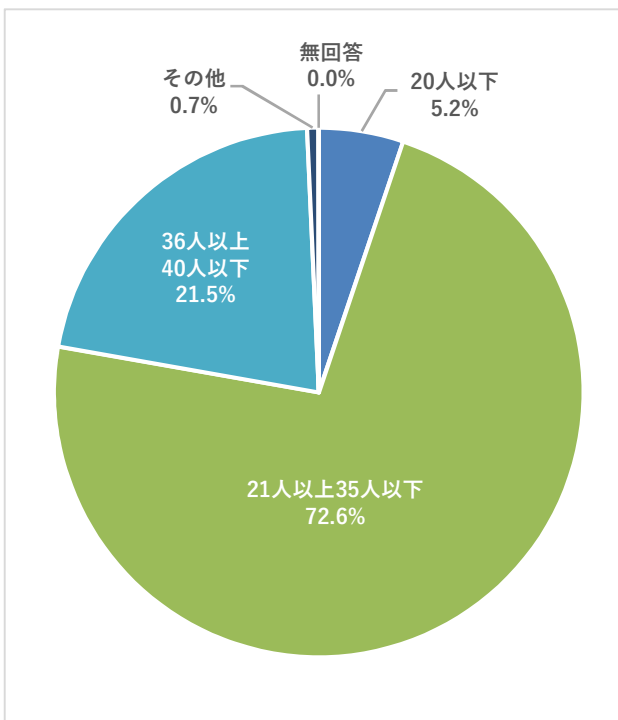
【小学校】（n=7,845）



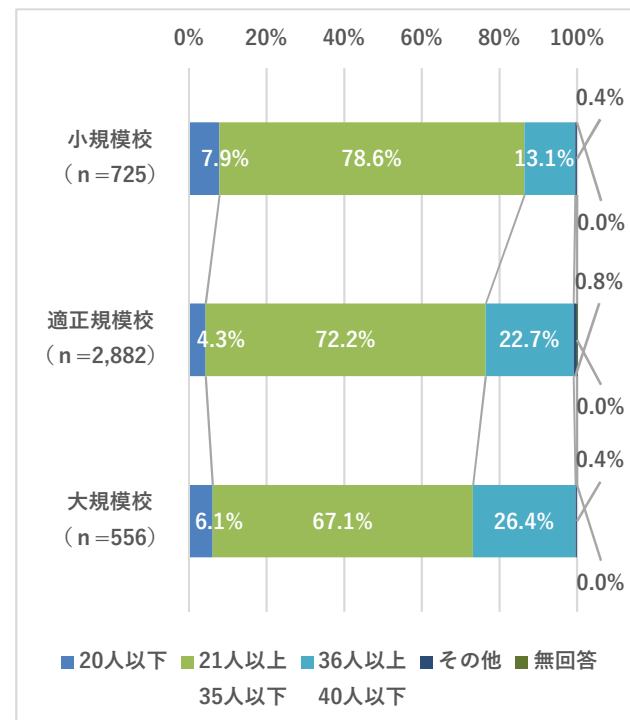
《学校規模別》



【中学生】（n=4,163）



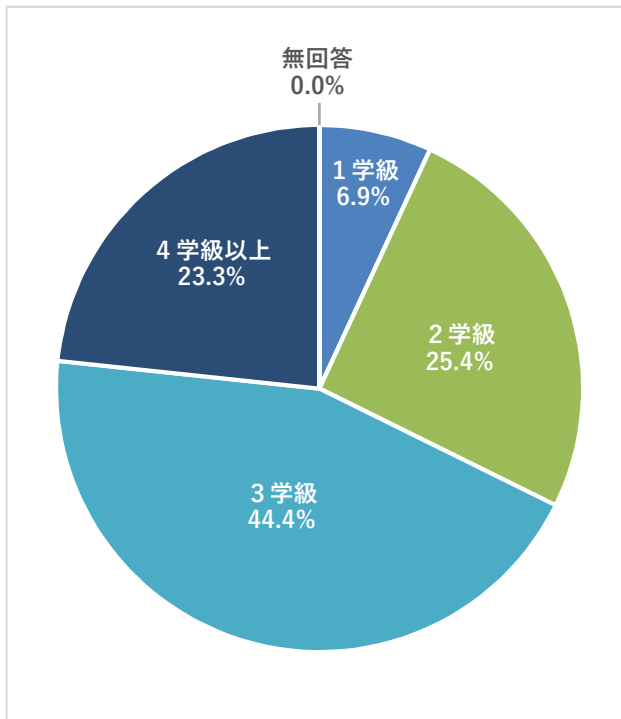
《学校規模別》



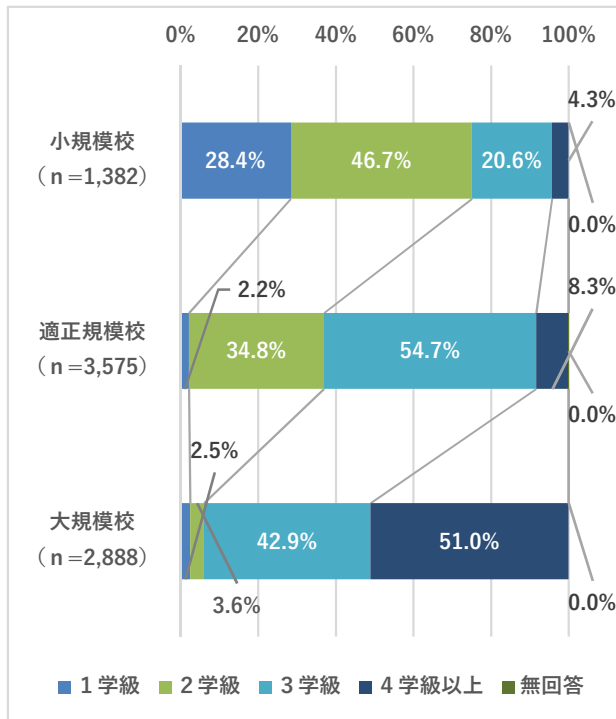
2. 1学年の学級数

小学校では、「3学級」が44.4%と最も高い割合を占めています。学校規模別で見ると、小規模校は「2学級」が46.7%、適正規模校は「3学級」が54.7%、大規模校は「4学級以上」が51.0%と、それぞれ最も高い割合を占めています。

【小学校】（n=7,845）



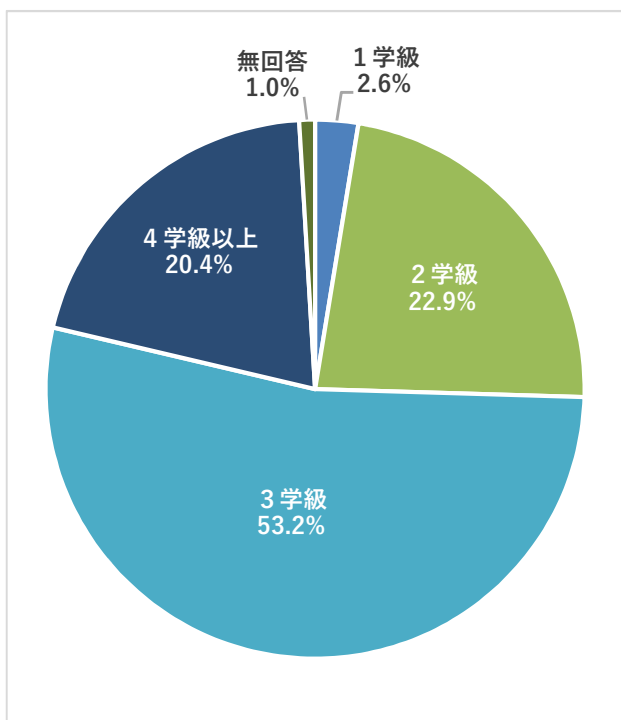
《学校規模別》



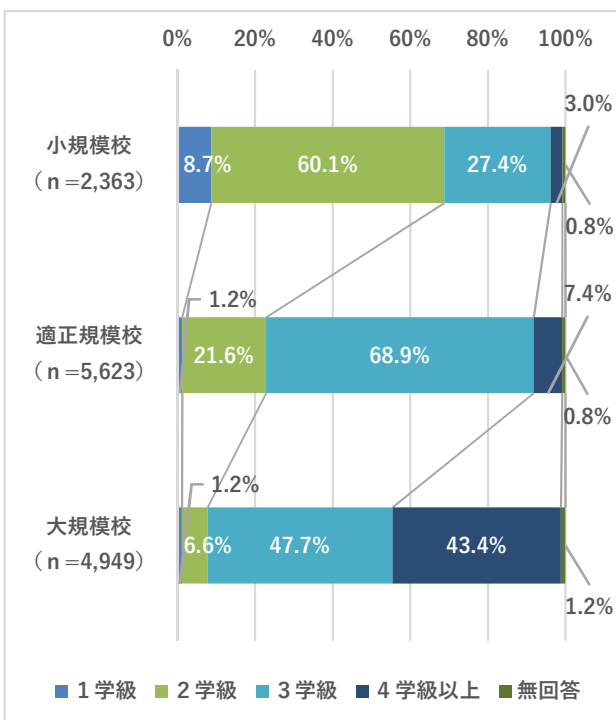
<参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）>

問G 1学年あたりの理想的な学級数はどのくらいだと思いますか。

【小学校】（n=12,935）

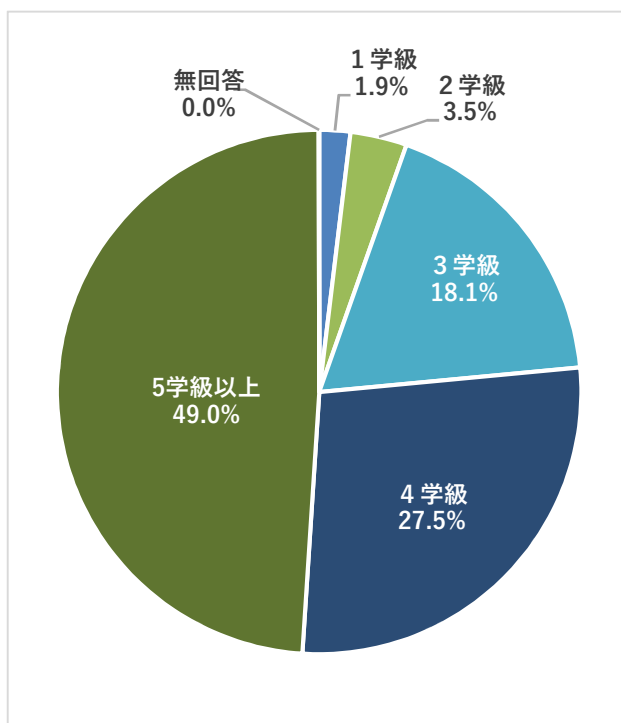


《学校規模別》

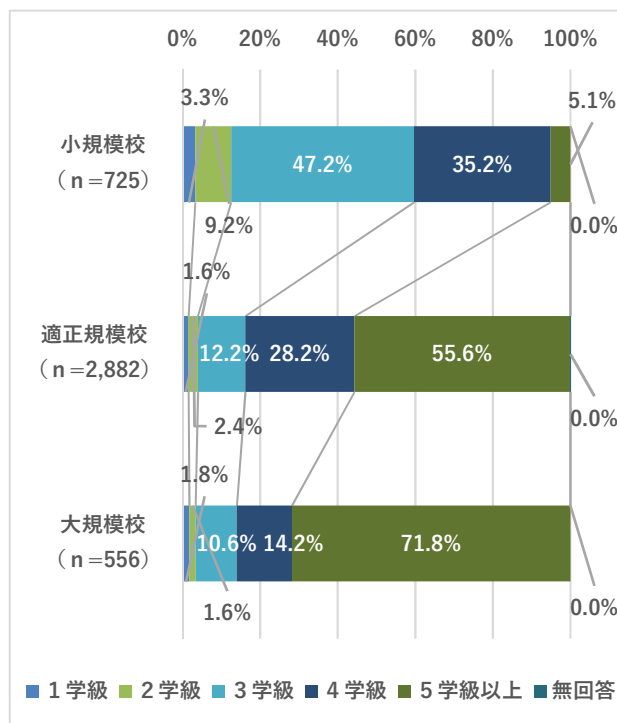


中学校では、「5学級以上」が49.0%と最も高い割合を占めています。学校規模別でみると、小規模校は「3学級」が47.2%、適正規模校は「5学級以上」が55.6%、大規模校は「5学級以上」が71.8%と、それぞれ最も高い割合を占めています。

【中学生】(n=4,163)



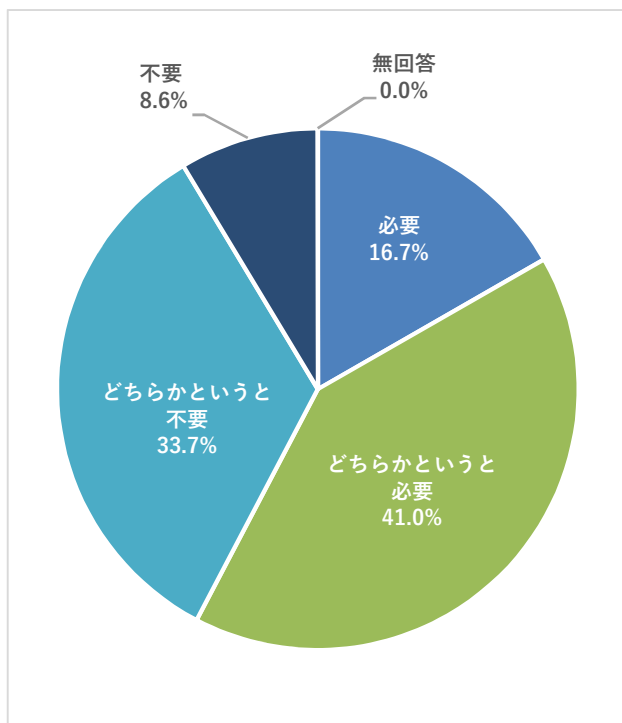
《学校規模別》



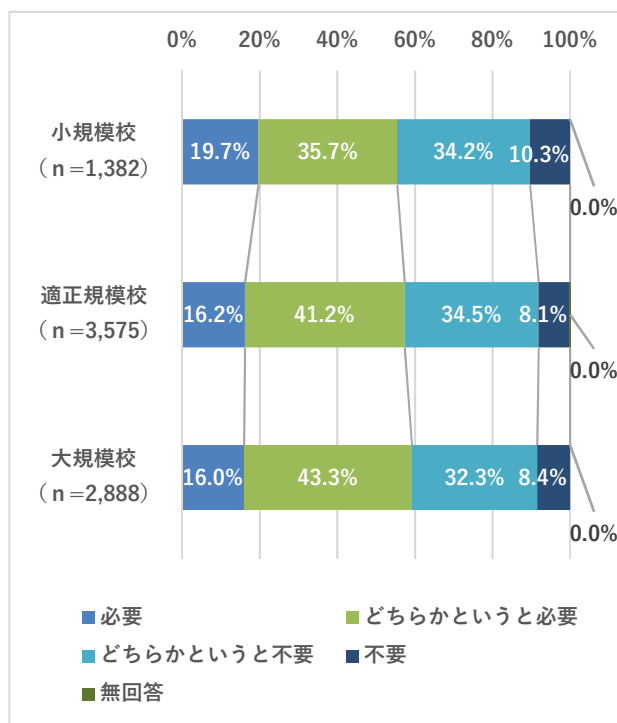
問11 小規模校対策（例えば学校の統合）は必要だと思いますか。

小学校では、「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合が57.7%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。

【小学校】（n=7,845）



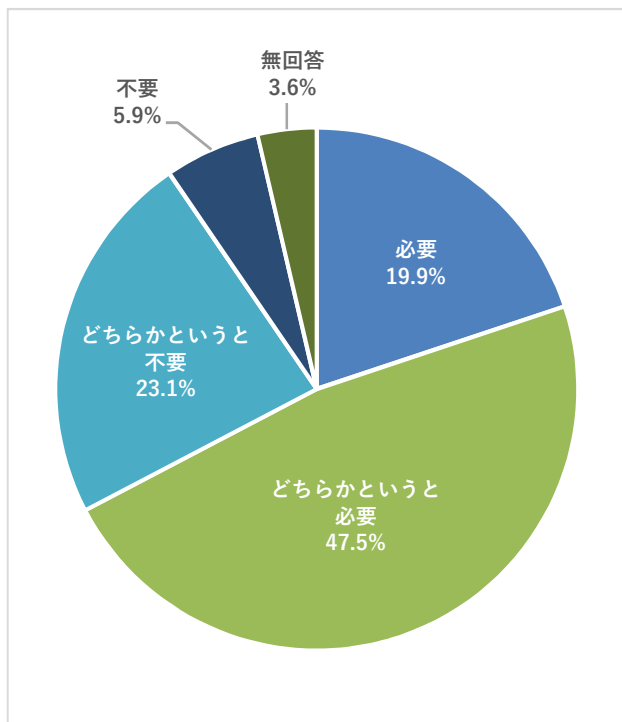
《学校規模別》



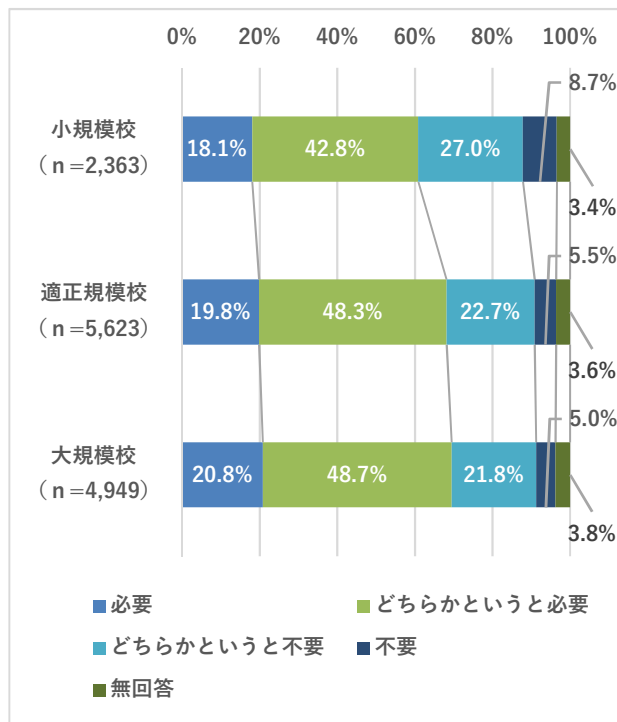
＜参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）＞

問N 小規模校対策（例えば学校の統合）は必要だと思いますか。

【小学校】（n=12,935）

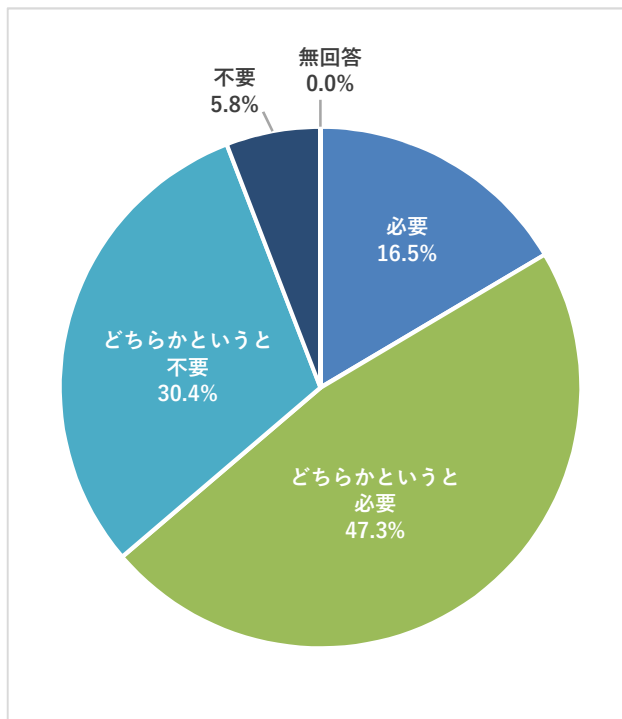


《学校規模別》

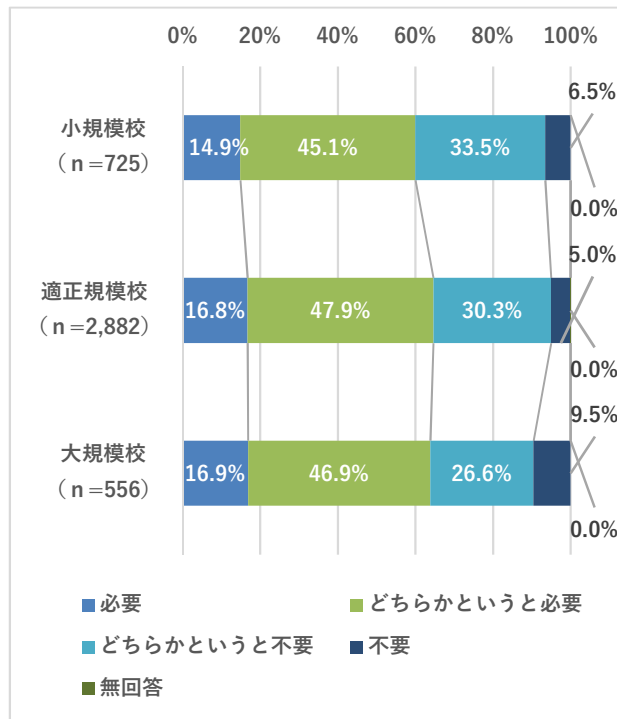


中学校では、「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合が 63.8%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、中学校全体とほぼ同様の割合となっています。

【中学生】(n=4,163)



《学校規模別》



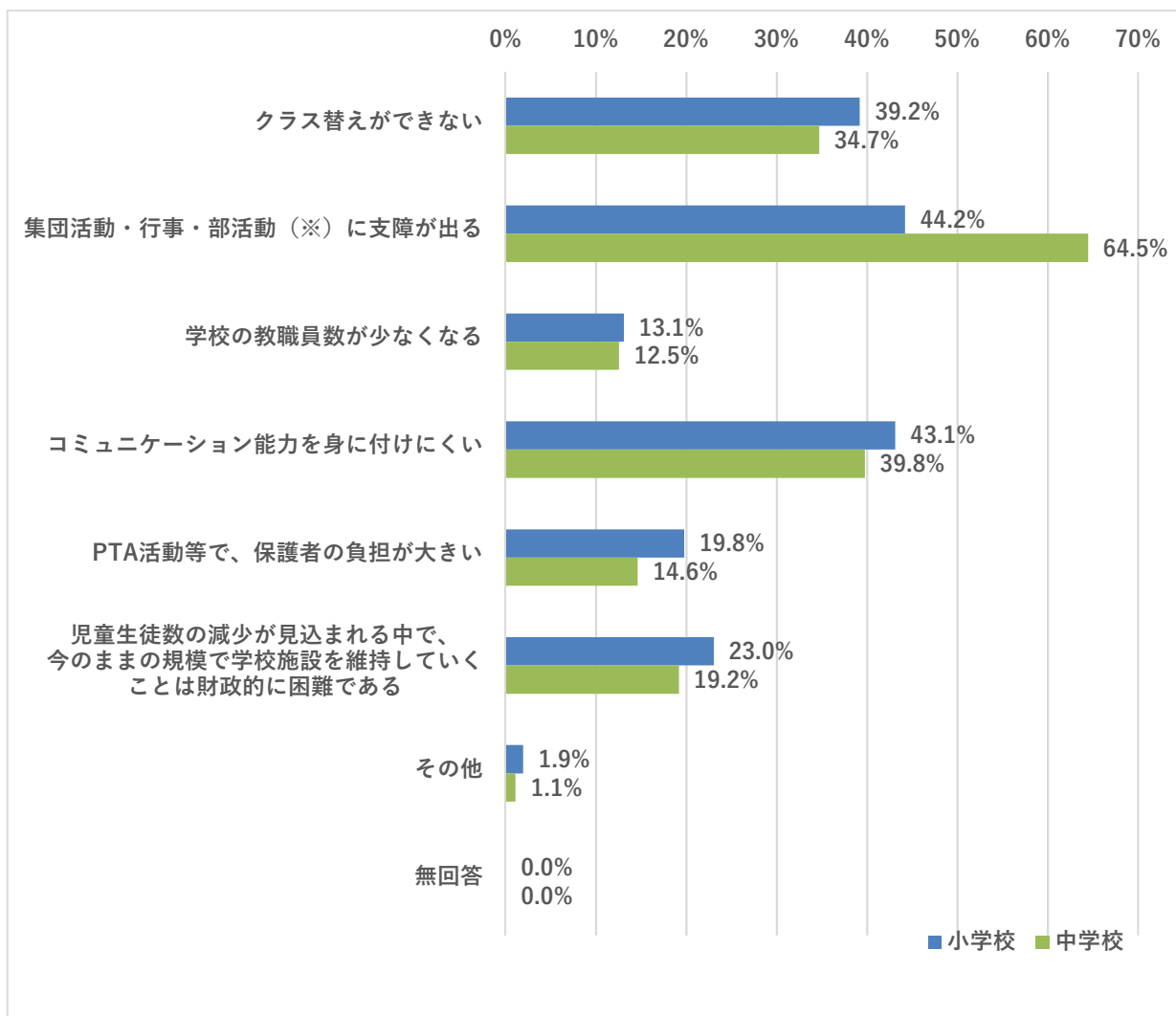
問 12 小規模校対策がなぜ必要だと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

(問 11 で「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答)

小学校では、「集団活動・行事に支障が出る」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「コミュニケーション能力を身に付けにくい」が 43.1%、「クラス替えができない」が 39.2%となっています。学校規模別で見ると、小規模校は「クラス替えができない」が 48.4%、適正規模校は「集団活動・行事に支障が出る」が 44.2%、大規模校は「集団活動・行事に支障が出る」が 47.0%と、それぞれ最も高い割合を占めています。

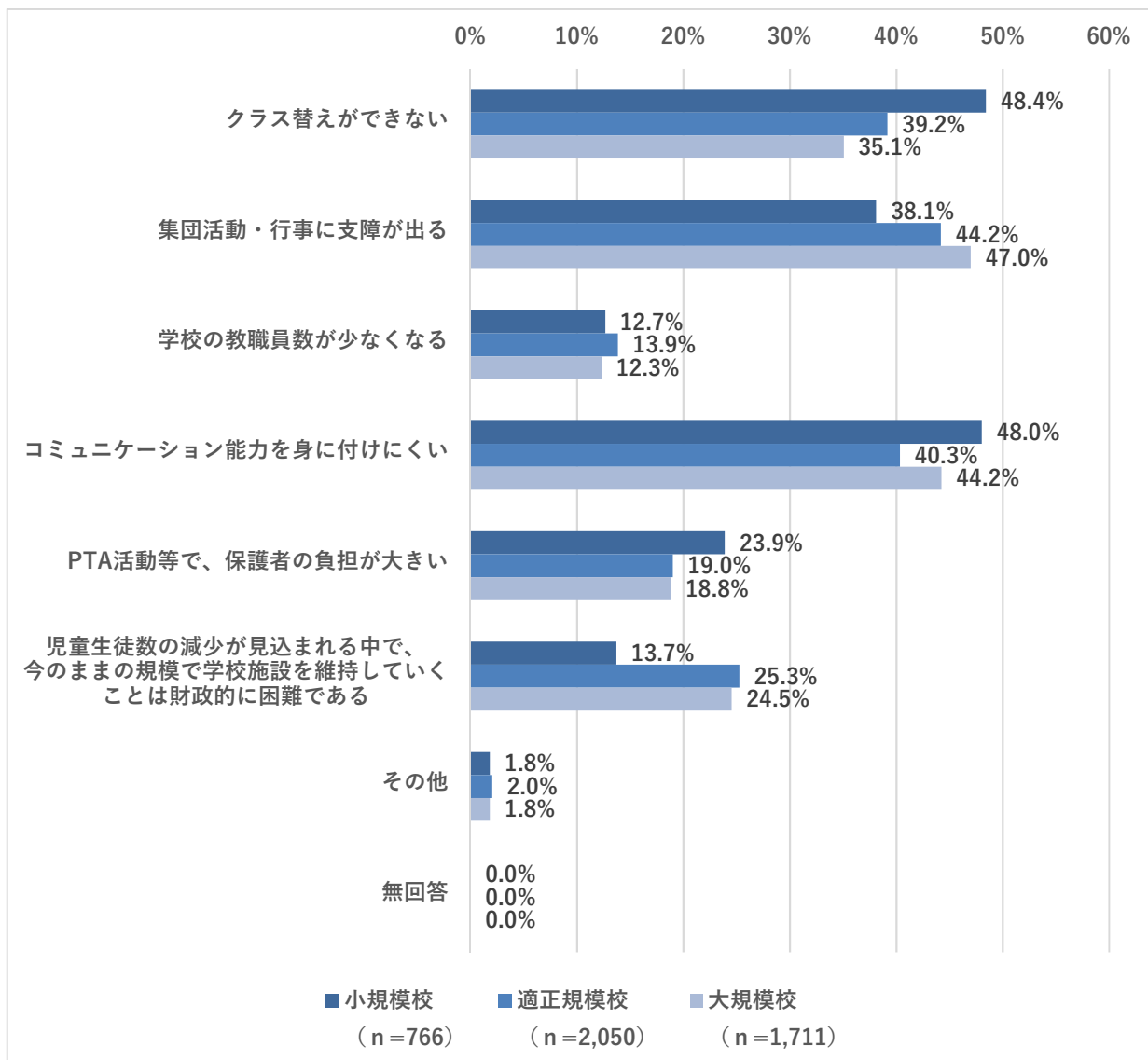
中学校では、小学校と同様に「集団活動・行事・部活動に支障が出る」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「コミュニケーション能力を身に付けにくい」が 39.8%、「クラス替えができない」が 34.7%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、「集団活動・行事・部活動に支障が出る」が最も高い割合を占めています。

【小学校】(n=4,527)、【中学校】(n=2,654)

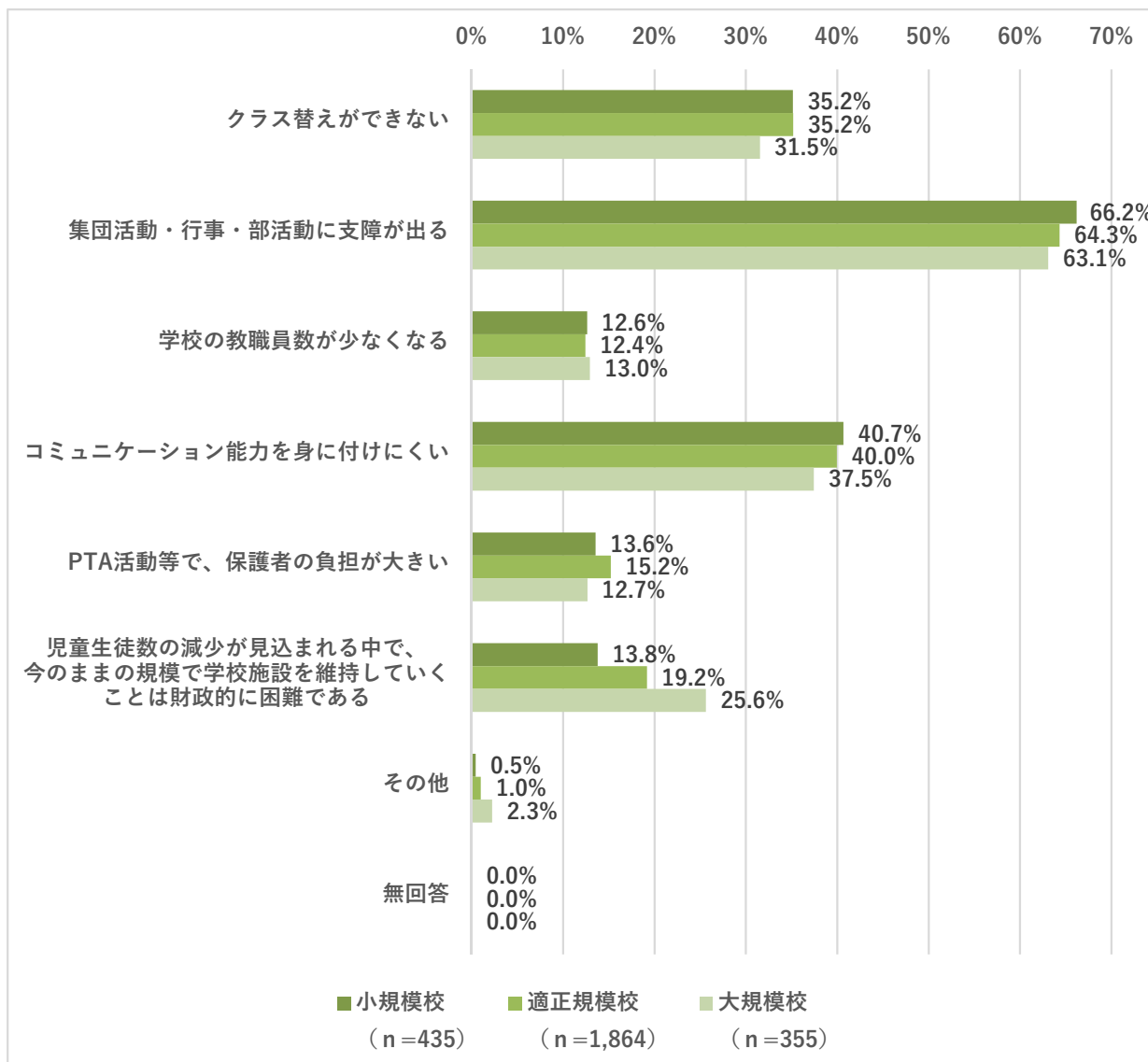


※「部活動」は、中学校のみ選択肢に含まれます。

《学校規模別（小学校）》



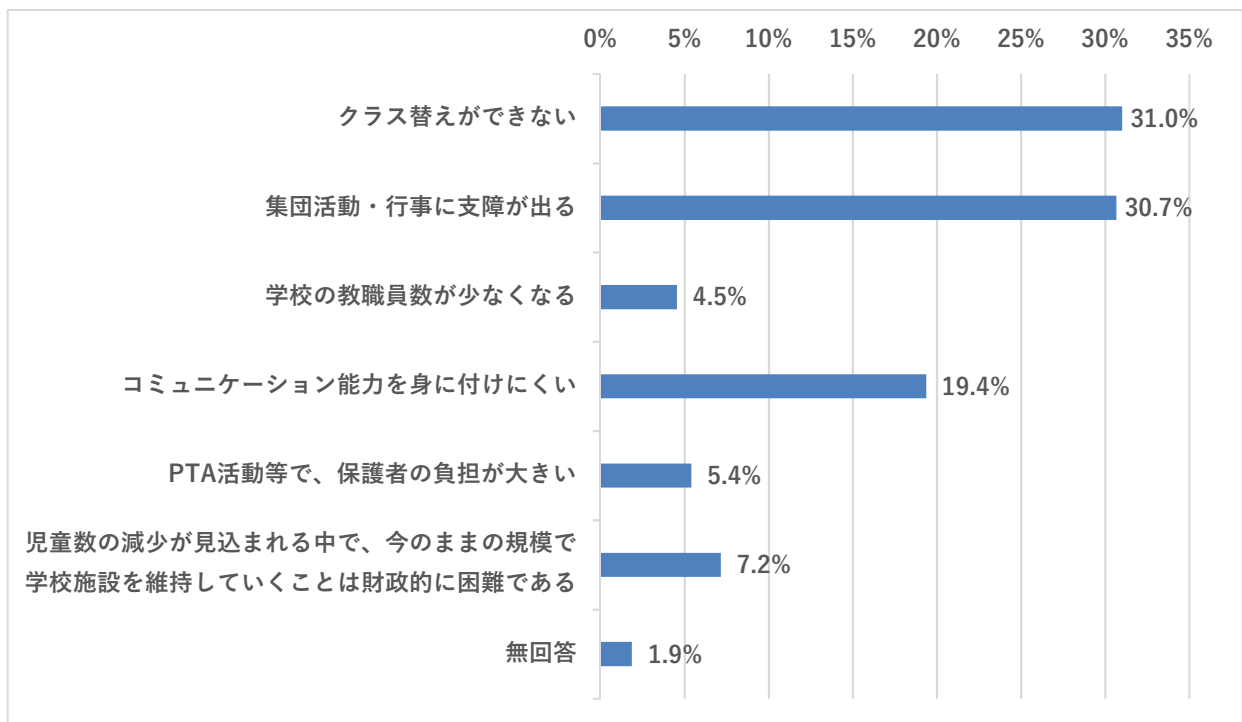
《学校規模別（中学校）》



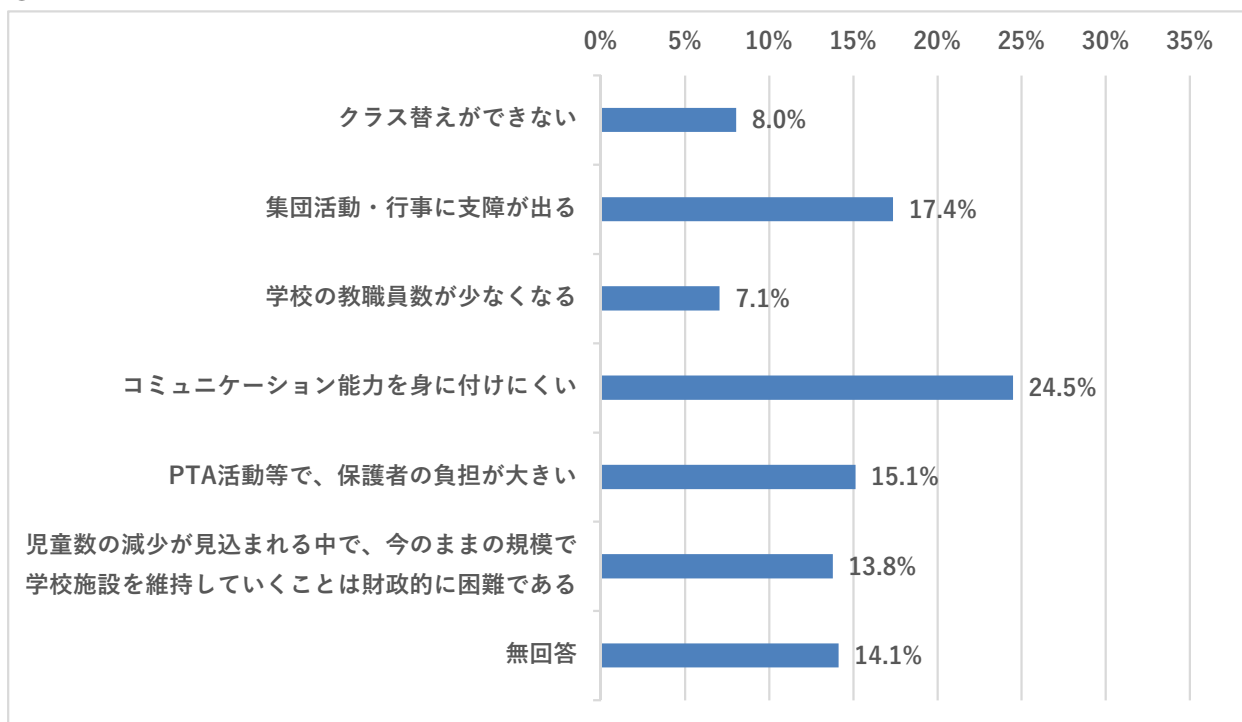
<参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）>

問〇 小規模校対策がなぜ必要だと思いますか。（n=8,709）

①最もあてはまるもの



②次にあてはまるもの



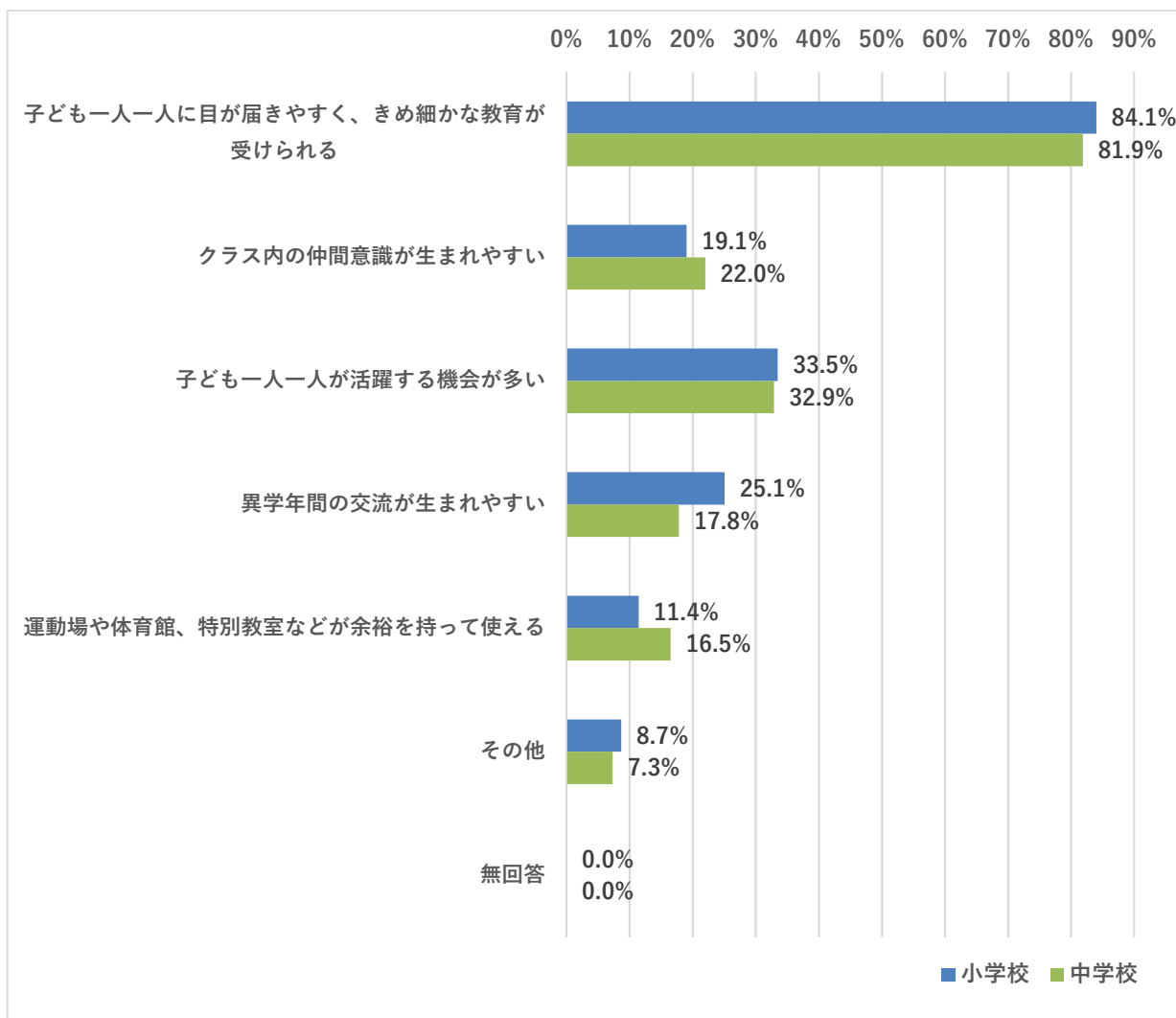
問 13 小規模校対策がなぜ不要だと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

(問 11 で「不要」または「どちらかというとな必要」を選択した場合のみ回答)

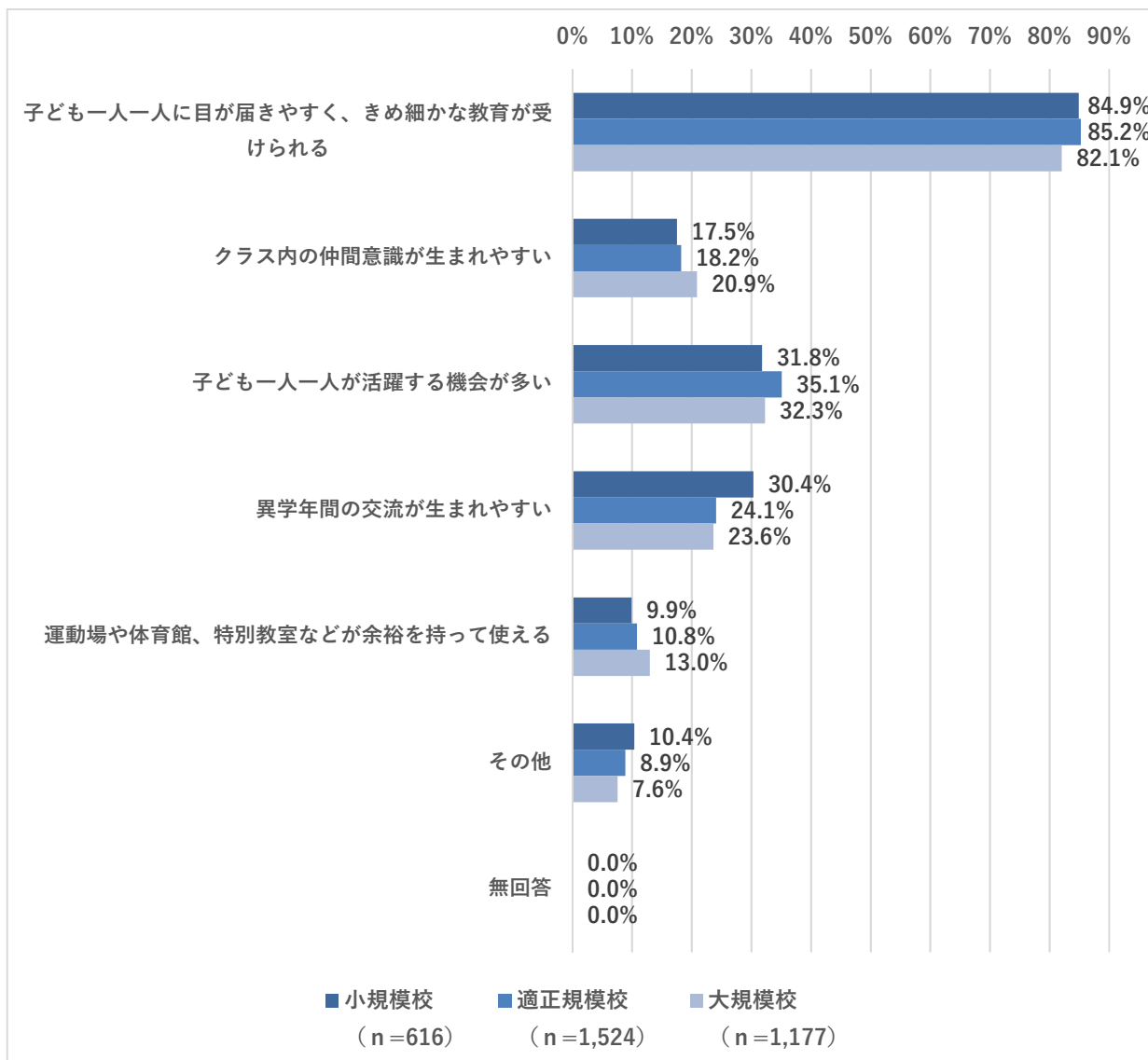
小学校では、「子ども一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。」の割合が 84.1%と最も高く、次いで「子ども一人一人が活躍する機会が多い」が 33.5%、「異学年間の交流が生まれやすい」が 25.1%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。

中学校では、小学校と同様に「子ども一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」の割合が 81.9%と最も高く、次いで「子ども一人一人が活躍する機会が多い」が 32.9%、「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が 22.0%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、中学校全体とほぼ同様の割合となっています。

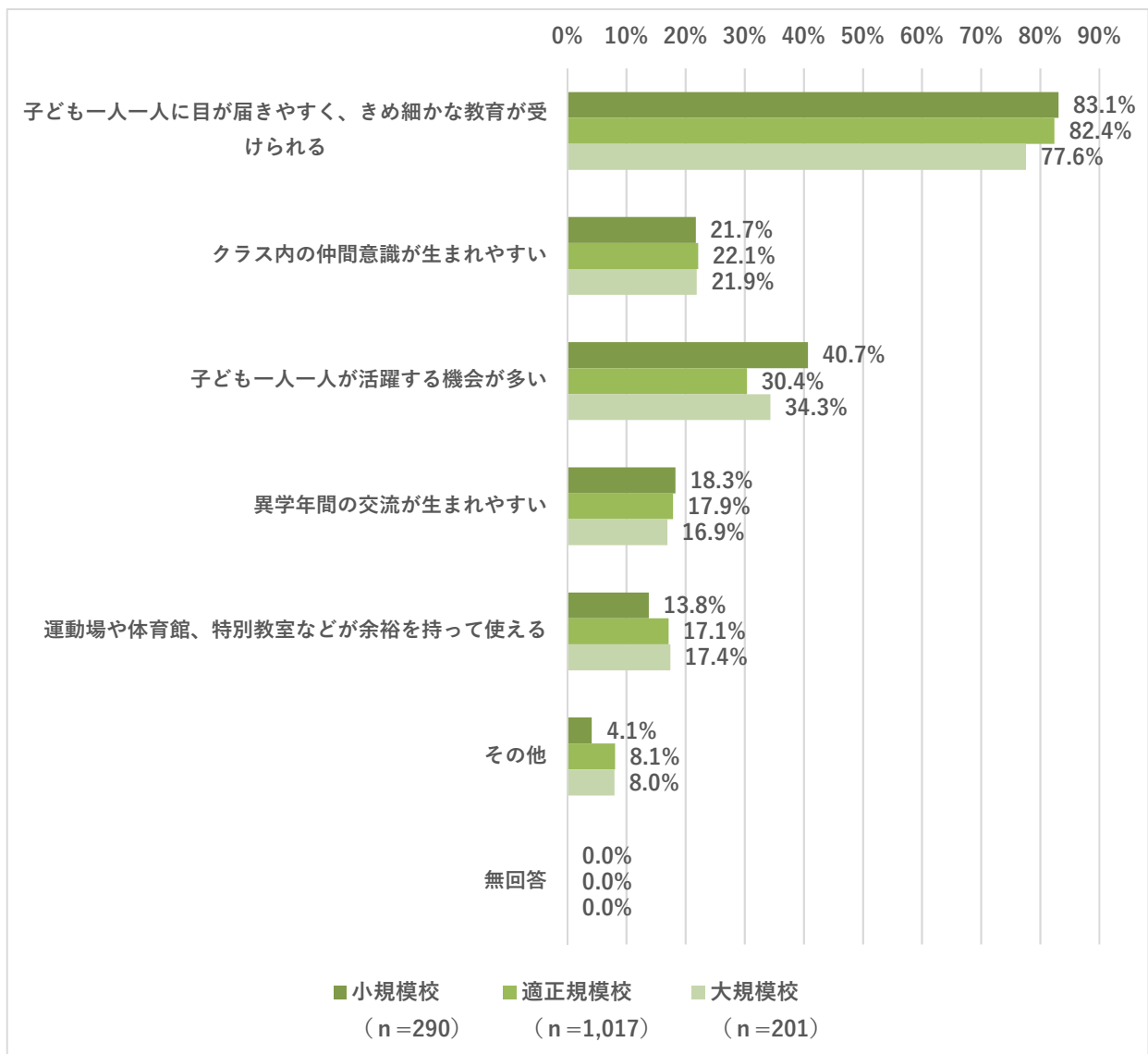
【小学校】(n=3,317)、【中学校】(n=1,508)



《学校規模別（小学校）》



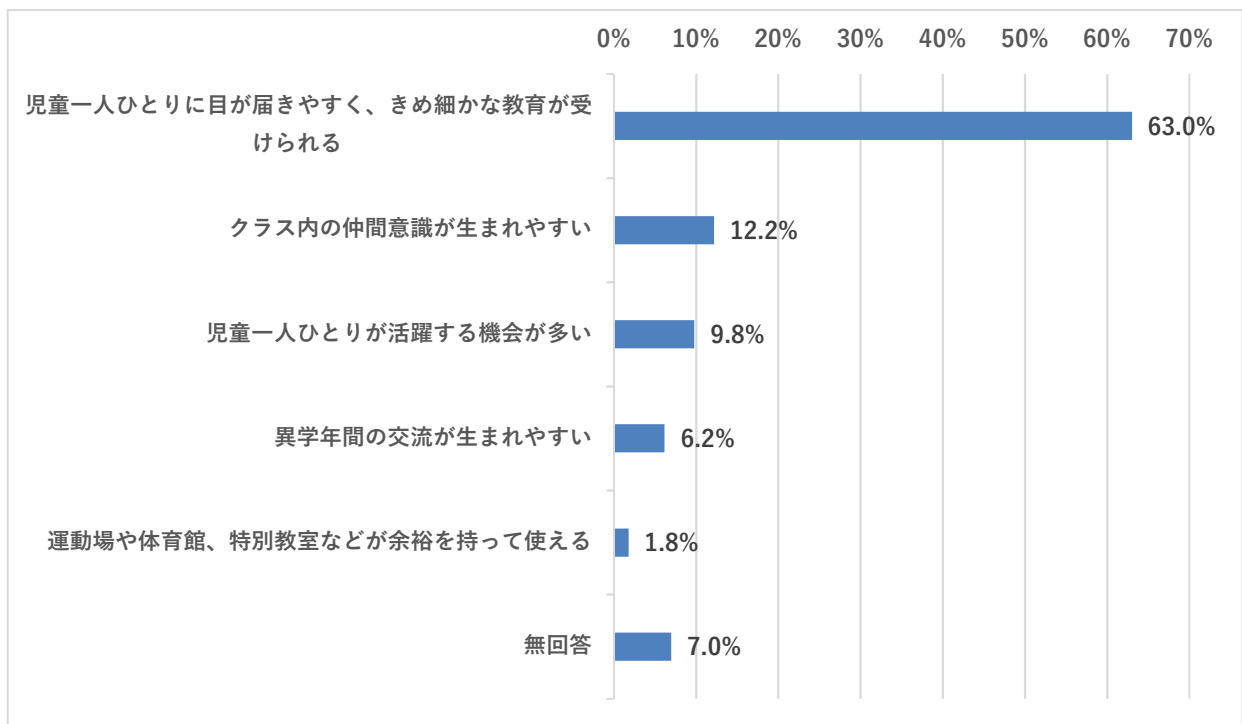
《学校規模別（中学校）》



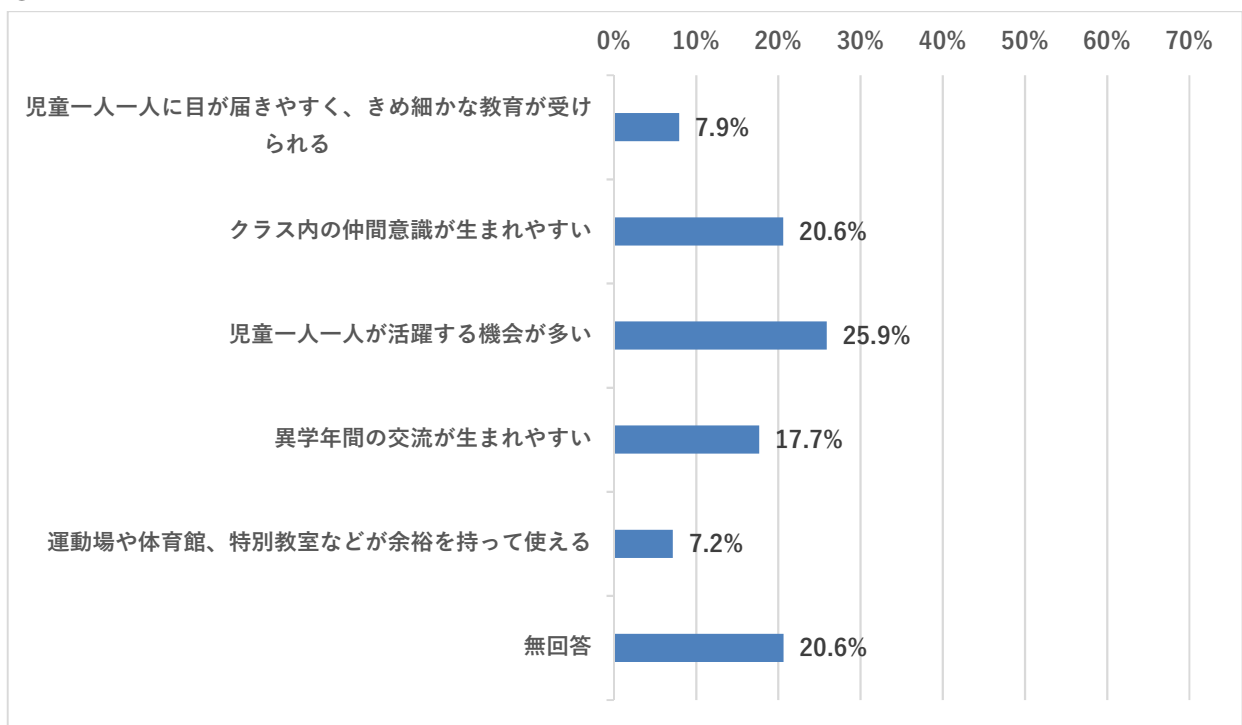
<参考（令和元年度小学校のあり方に関するアンケート調査）>

問Ⅱ 小規模校対策がなぜ不要だと思いますか。（n=3,754）

①最もあてはまるもの



②次にあてはまるもの

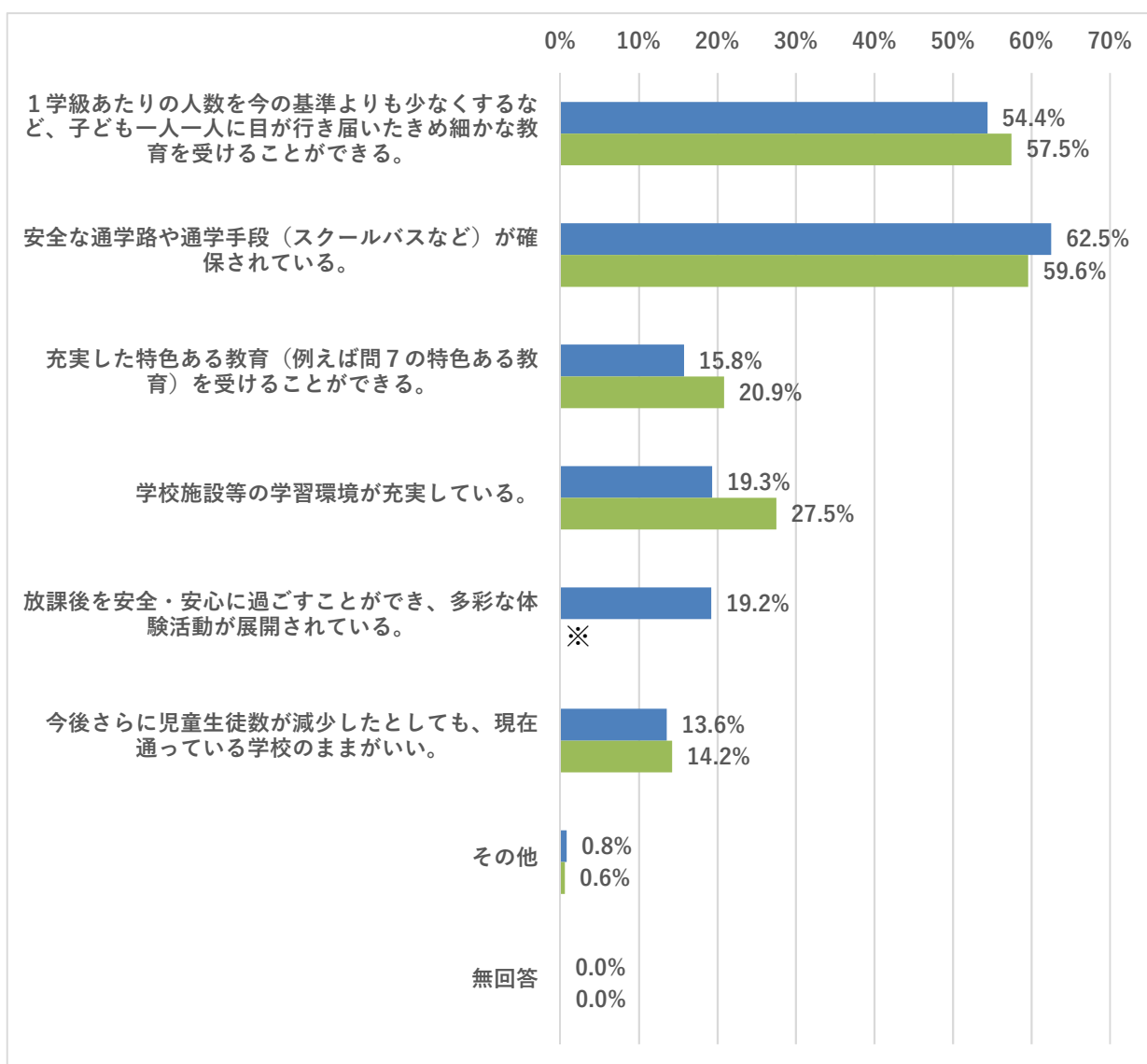


問 14 どのような環境が整っていれば、お子さんが通われている学校が別の学校と統合し新たな学校になってもよいですか。(最もあてはまるもの2つまで)

小学校では、「安全な通学路や通学手段（スクールバスなど）が確保されている。」の割合が62.5%と最も高く、次いで「1学級あたりの人数を今の基準よりも少なくするなど、子ども一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育を受けることができる。」が54.4%となっています。学校規模別にみても、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。

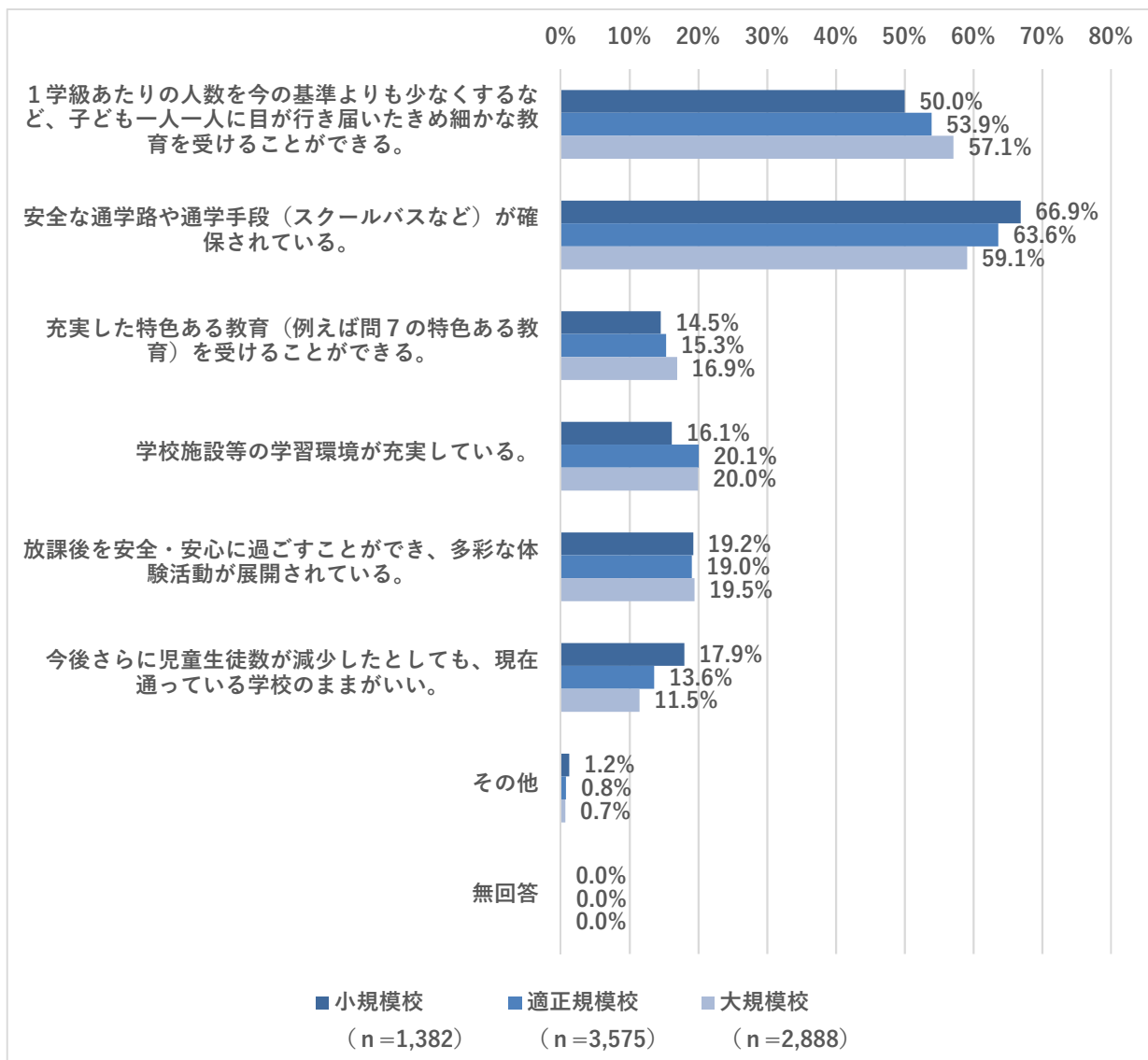
中学校では、小学校と同様に「安全な通学路や通学手段（スクールバスなど）が確保されている。」の割合が59.6%と最も高く、次いで「1学級あたりの人数を今の基準よりも少なくするなど、子ども一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育を受けることができる。」が57.5%となっています。学校規模別で見ると、小規模校は「安全な通学路や通学手段（スクールバスなど）が確保されている。」が60.8%、適正規模校は「安全な通学路や通学手段（スクールバスなど）が確保されている。」が59.9%、大規模校は「1学級あたりの人数を今の基準よりも少なくするなど、子ども一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育を受けることができる。」が61.7%と、それぞれ最も高い割合を占めています。

【小学校】(n=7,845)、【中学校】(n=4,163)

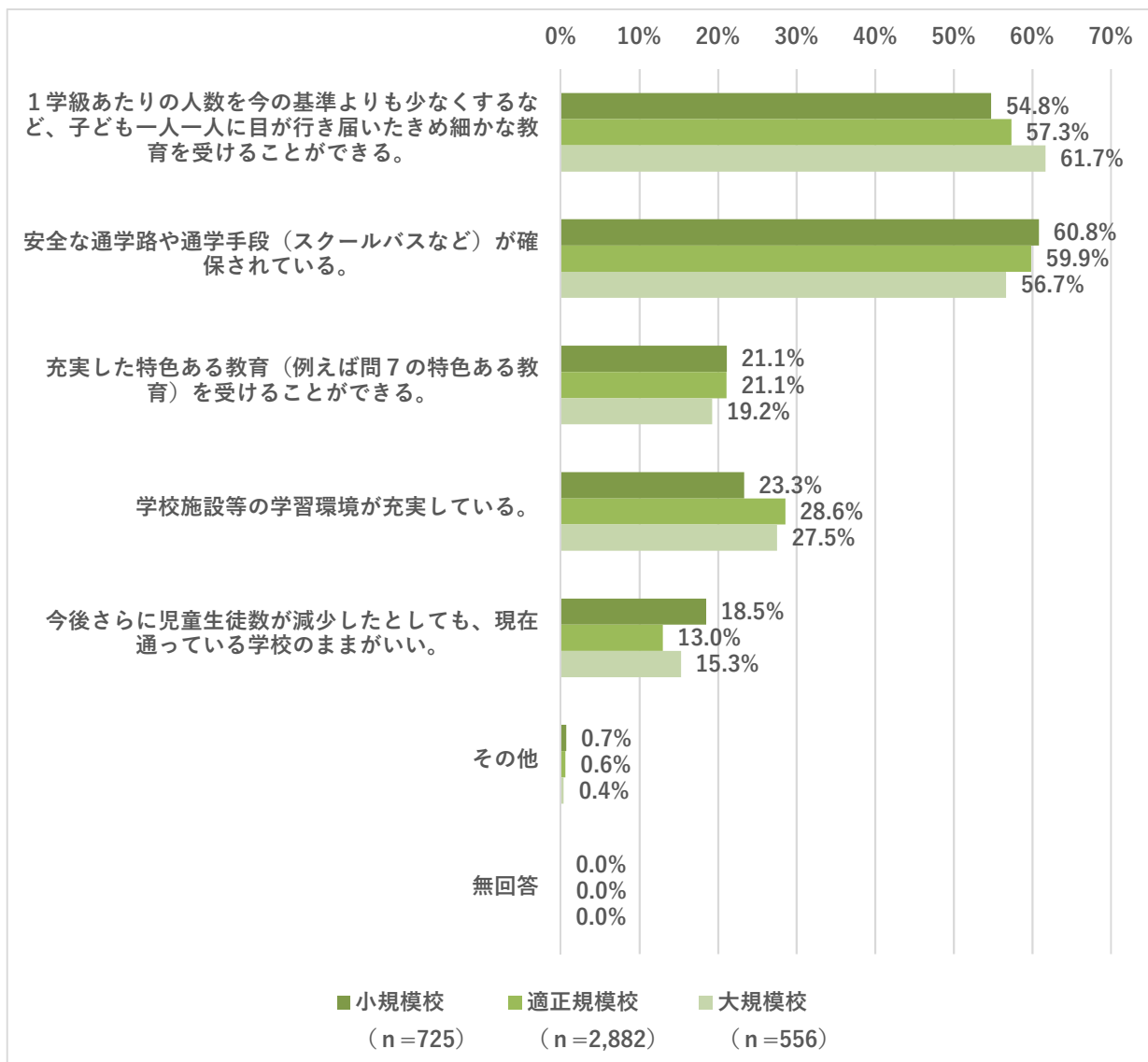


※「放課後を安全・安心に過ごすことができ、多彩な体験活動が展開されている。」は、小学校のみ選択肢に含まれます。

《学校規模別（小学校）》



《学校規模別（中学校）》



3. 自由意見（主な意見を抜粋）

（1）小学校（1,623件）

■少人数学級について

- ・子どもにゆとりをもって向き合える環境の中で、できれば、20から30人程度のクラスで、きめ細かな指導をお願いしたい。
- ・コロナ禍で教室の換気のしやすさと、子どもたちの机などが密集しないようにするために、1クラスあたりの人数の上限を減らしてほしい。
- ・1学級が35人では子どもの数が多すぎて、教員の指導が行き渡らないと感じるため、特に低学年では25人程度がよいと感じる。
- ・5、6年生の子たちは身体も大きく、また多感な時期にも入るので、40人学級だと教室が狭く感じる。また、一人一人の心の変化に教員が気づかないことがあると思うので、きめ細かな指導とよりよい教室環境を確保するため、低学年と同様に35人学級を希望する。
- ・1学年の学級数はある程度確保した上で、少人数クラスを編成してほしい。
- ・現在よりも1クラスあたりの子どもの人数を少なくした学級運営を行い、より集団での学習が適している場合は、複数の学級を合わせるなど柔軟な対応をしてほしい。
- ・クラスの人数を減らして、教員と子どもたちのコミュニケーションがしっかりとれて、一人一人に合った学習を提案できるようにしてほしい。
- ・学級の人数を少なくすることで、児童どうしが自分の意見をもって討論し合うような学習が小さい頃から実現されるとよい。
- ・友達と競い合い、集団の中で刺激を受けて欲しいとは思いますが、多様性が求められる社会の中で、少人数で個性を大切にしたい教育を希望する。
- ・40人クラスと20人クラスでは、やはり教員の目の届き方が違うので、学力にも差が出ると思う。

■教員の働き方改革、教員の資質の向上について

- ・子ども、保護者が信頼できる教員の配置が絶対的に必要であると感じるため、まずは教員が心身ともに健康でいられる環境をつくってほしい。それが子どもたちへの指導に良い影響を与えたいと思う。また、教員の数を増やし、保護者や子どもの相談に対応できるようにしてほしい。
- ・学校生活において主役は子どもたちではあるが、子どもたちを輝かせるのは現場の教員だと思うので、子どもたちが楽しく学校に行きたくなるような環境をつくってくれることを望む。教員が活気に満ち溢れている姿で子どもたちと接してほしい。
- ・多様性や発達障害に対しての知識・対応・適応力を持った教員を増やしてほしい。
- ・現状の教員数ではさまざまな業務に対して支障がでると感じるため、もっと教員数を増やして負荷を分散し、子どもと向き合う時間を確保し、質の向上を目指してほしい。
- ・学校環境の充実は、教員の裁量によるところが大きいと思うので、どのような活動内容にするか、どのような声かけをするか、どのような空気感でどのような指導を行うのか、安心して子どもたちを預けられる教員の育成、採用を望む。
- ・学校で子どもたちが1番長く深く関わるのが教員であり、教員の余裕の有無が子どもに直接影響する。その教員が業務の多さなのか、時間の無さなのか、とにかく余裕がないのが気になるため、教員が心身ともに余裕をもって子どもたちと関わるができるよう、行政なり教育委員会なりがもっと支援すべきである。
- ・子どもたちが、将来の夢は教員だと言える労働環境になることを願う。

- ・外部委託できるところは積極的にした方が、教員の負担を減らすことができるとともに、子どもにとっても専門の方から学べ、知識が深まるのではないかと感じる。
- ・教員の負担を軽減することが、より良い教育を受けられる最善策であるため、学校運営や授業のIT化やAIの活用などを進めてほしい。
- ・いじめ等の問題が発生した時に、教員がすぐに気がついて対応できるような職場環境であってほしい。

■多様性を重視した教育、個性を伸ばす教育について

- ・子どもの個性を伸ばしながら、いじめなどのない、子どもが自分を発揮できる行き届いた教育を望む。
- ・相手の考え、気持ちを想像し、また自分の感情、意見も表現できる、コミュニケーション力が培われる教育を希望する。
- ・ただ厳しくルールに則ってではなく、世界に目を向け、個々の多様性を尊重し、自分の考えを臆せず言葉で表現できる教育を望む。
- ・教育のあり方について、今までの「こうであるべき」、みんなが一緒のことが同じようにできるという教育からそれぞれの個性や特性を生かせる、みんながそれぞれを認めていける教育が、これからは必要である。
- ・みんな一緒にではなく、持ち物1つにしても自由を認めて、一人一人の個性を認めたり、一人一人の良いところを引き出して自信をもたせたりして、自己肯定感を高められるような指導をしてほしい。
- ・多様性の時代に対応すべく、横並びの教育ではなく、他者との違いを認め、「みんな違っていいんだよ」、そして「足りない所は補い合えばいいんだよ」と言う思いやりの大切さを育ててほしい。
- ・自分と違う考え方や価値観を持った人と出会い、認めていけるような環境であってほしい。性別、国籍、両親のルーツ等でハンデを感じない教育を提供してほしい。
- ・勉強のみでなく、多くの分野で子どもたちの得意なことで輝ける場所を提供してほしい。
- ・学校は、学力だけでなく、一人一人を丁寧に見守り、個性を伸ばしつつ、集団生活でのコミュニケーションのとり方を身につけられるような場となって欲しい。
- ・学校では、道徳、性、発達障害などについて色々なタイプの人間がいる事を知ってもらいたい。友達が困っているときや、できないことに手を差し伸べ、受け入れる事ができるような優しい気持ちを行事や授業を通して育ててほしい。

■学校規模の適正化について

- ・子どもの人数がさらに減少した場合、今の規模のままの少人数学級ではなく、今の人数を確保した学級数にして学校を再編し、削減できた費用を通学手段のスクールバス等に充てて、遠方になる児童等に不便なく通えるようにすることが望ましい。
- ・少人数ならではの良さもあるから、一概に統合には賛成できない。
- ・子どもは、今いる人たちで社会ができてしまう。人数が少なくなると、その社会が狭くなってしまわないのではないかと感じる。社会は、その小学校だけではなく、豊橋市だけでも、日本だけでもないということを知る教育が必要だと思う。通学に安全な手段があれば、小学校を統合して、多くの人と触れ合うことで、色々な人がいることを知り、視点が広がる一助になればと感じる。
- ・小規模校に関してはメリット・デメリットがあるため統合などの措置を取るべきかどうかの選択は非常に難しいと感じる。実際の統合に際しては、学校とその地域の保護者間での対話が必要である。

- ・小規模校は、縦割り活動や発表の機会は増えるものの、クラスの中で子ども自身が自分の立ち位置、順位を決めて諦めてしまう事がみられたので、統合を希望する。統合した際は、選択制の授業や少人数授業を増やすなどできるだけクラスを完全に固定しないで、友達と問題が生じた時でもどこかに居場所がある工夫など、様々な子ども達が少しでも学校生活を楽しめるようにしていただきたい。
- ・小規模校は、先生が目が行き届き、子ども一人一人が活躍できる場が多く、何事も自分達で最後までやりきることができ、とても満足している。子どもたちは仲が良く、競争意識は芽生えにくいのが、他学年との交流も多く、みんなで協力するという大事な意識は自然と身に付いている。人数だけで統合という流れは無用である。
- ・今後も子どもの増加が見込めない中、コミュニケーション不足など様々なデメリットが浮き彫りになっているため、大人の責任において、具体的に統合に動くべきだと強く思う。
- ・今後、児童数が減って学校の統合があった場合、子どもの登下校の安全は最優先で考えて欲しい。個人的には児童数が減っても今の学校のまま子どもたち一人一人と教員の距離の近い関わりができるようになるので、統合は必要ないと感じている。
- ・金銭面からすれば統廃合が望ましいかもしれないが、子どもは地域で育つものなので、できる限り現在の学校数を維持してほしい。
- ・今後の教育では基礎学習も大切ですが、多様性に触れ、他者を尊重し、子ども達の資質や能力に目を向け、伸ばす教育が必要になる。そのため、安全なバス通学などの配慮をした上で、ある程度の人数で集団生活を過ごす体験は、社会性の育成につながると思うので、学校の統合は必要になってくるのではないかと感じる。

■体験活動の充実について

- ・学校では、家庭ではなかなかできない体験(学校行事、社会科見学、集団行動なども含めて)をさせてほしい。
- ・いろんなことに触れて、数多く体験ができる授業があってほしい。子どもの頃にやったことがあるだけでも財産となり、将来の選択肢が増えると思う。
- ・友達や先生と一緒にさまざまな体験活動をすることで、人と関わるのが楽しいと感じられるようにしてほしい。
- ・さまざまな体験を通して、一人一人の子どもが得意分野を見つけられるような教育をしてほしい。
- ・昔あった社会科見学、遠足、部活、行事もそうだが、体験活動が、コロナやさまざまな問題で減っているのが気になる。勉強ももちろん大切だが、子どもの頃にしかできない体験や机上では学べない体験は、子どもが成長する上ですごく大切である。
- ・諸行事や部活動等が縮小され、子どもたちが学ぶ以外のことを体験する場が少なくなっていると感じる。親世代が体験してきた学校生活や、その他にも今の時代にあった新しい体験や学びを今の子どもたちに体験させてあげたい。
- ・学業だけでなく、自然との触れ合いや社会科見学、奉仕活動など、普段の生活では経験できないことを経験し、いろいろな世界があるということを知ることによって視野を広げ、考える力や創造する力、自主性を養って欲しい。
- ・社会を学ぶ場として、家庭だけではできないたくさんの友達との関わりや、座学だけではなかなか理解できないようなことを、さまざまな体験を通して、実感として学ぶことのできる教育を受けさせたい。

- ・豊橋という地域性を生かした体験型学習、興味関心を引き出し、より自発的に調べ学習につなげていけるような教育を望む。

■その他

- ・部活動の復活（1つの競技や活動に取り組む機会の提供、のびるん de スクールの充実、外部人材の活用、運動機会の減少への危惧など）
- ・子どもが安心安全に学校生活を送れる環境の構築
- ・通学の安全確保
- ・PTA活動などの負担の軽減
- ・コロナ禍の学校生活（マスクの着用、給食（黙食）、学校行事の削減など）
- ・習熟度別の学習の充実
- ・複数担任制、支援員の充実
- ・企業や地域と連携した教育
- ・不登校対策の充実
- ・学校運営等のICT化（行事説明会、欠席連絡など） など

(2) 中学校 (643 件)

■教員の働き方改革、教員の資質の向上について

- ・複雑な環境の中で、教員の負担が多く、子どもたちに目が行き届いていないと思う。教員の数が足りないのか、仕事が多すぎるのか分からないが、人生の中で大事な3年間だと思うので、もう少し子どもたちに寄り添える余裕があるとよい。
- ・多様性について十分な理解のある教員の養成が急務だと感じる。柔軟性の高い優秀な教員の活躍の場を広げるべきである。
- ・教員は生徒を指導する立場であるが、一番身近な大人として子どもたちのお手本になる存在でいてほしい。一番重要なのは子どもに寄り添って信頼できる教員の存在である。
- ・教員の働き方が問われている昨今、教員をサポート、支援する体制が整っていないのではないかと。事務員を各学年複数名配置して、教員でなくてもできる仕事を任せ、教員が本業に集中できる体制を整えていただきたい。
- ・教員の働き方改革は進めるべきである。部活の時間が短縮されたが、限られた時間の中で、教員と子どもたちの意欲をその時間に集中させ、充実した時間を過ごせるなら問題ない。
- ・教員の資質向上のための、働き方改革の推進は必要である。

■部活動について

- ・部活を地域に委託する場合、今まで部活動で培われてきた人間関係や基礎体力、人としての成長が乏しくなると思う。思春期の子どもたちの複雑な思いや微妙な部分までフォローしていけるのか、不登校が助長されないか、学校の先生だからこそできることがあるのではないかと。
- ・部活動の存続維持を強く要望する。行政が教員人数枠を増員する方針を出すべきである。または部活指導をしている教員の事務を外部派遣会社に委託するなど、一般企業でやっている業務効率、アウトソーシング化も視野に検討してほしい。
- ・部活動がなくならないことを願っている。学力も大切だが、仲間たちと同じものを好きになって切磋琢磨する部活動は、クラス活動とは違った関係が築ける場であると思う。社会に出る前に仲間とがんばれたことや部活動を3年間がんばれたことは、自分の糧にもなる。外部のコーチを呼ぶなど、先生方の負担を減らしつつも、子どもにかかる時間は減らさないでほしい。
- ・平日課題の縮小や部活動の撤廃・外部委託など変化してきている中で、教員の働き方改革をはじめ、塾やクラブチームなど親の経済状況や家庭環境などに左右されるなど、大人の都合で子どもたちの学校生活や勉強が不平等になるのは本末転倒ではないかと。
- ・部活動の日数が減り、勉強との両立がしやすくなったと思う。体験型の授業や校外学習を増やしていただき、子どもたちの心を豊かに育ててほしいです。

■少人数学級について

- ・クラスの人数がとても気になる。小学生と比べて体も大きくなり、密にもなるため、活動もスムーズに行えないのではないかと。なぜ2年生からは、40人になるのか理解できない。30人ぐらいが教室のサイズから適正ではないかと。
- ・今の1学級の人数は多いと思う。少人数で生徒にも教員にもゆとりある環境となれば様々な面で向上していくと思う。
- ・狭い教室に40人近くの生徒がいると教員の目が行き届いていない気がする。少ない方が教員ともコミュニケーションを取る時間が増え、気軽に話せるかなと思う。

- ・教員の働き方改革も当然ながら必要だが、もっと教員や事務職を増やして、少人数クラスを実現し、塾に通わなくても安心して学習できる学校にしてほしい。このままだと、学習も運動(部活動の地域委託により)も、今後ますます格差が広がっていくように感じる。教育にもっともっと予算をつけてほしい。
- ・学力に差があるため、少人数クラスを導入し、子ども一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育を受けることができる環境を整えていただきたい。

■多様性を重視した教育、個性を伸ばす教育、不登校対策について

- ・時代に合わせ多様性を前提に子どもたちが主体的に互いの価値観を認め合える規則の改定や運営を行って欲しい。
- ・既存のルールに縛られるのではなく、子ども自身がどんな学校、どんな仲間になっていきたいかを考え合い、出し合い、お互いを認め合って、どの子どもも安心して通って学べる場であってほしい。岡崎市美川中のF組の理念を、豊橋市でもぜひ取り入れてほしい。
- ・「みんな違ってみんないい」1人1人の個性を大切に、どの子どものびのび自分らしさを出せ、大人になってからも自己肯定感を高く持ち、いきいきと人生を歩んでいけるような教育をして欲しい。
- ・不登校の子など、クラスで授業を受けられない子でも授業に遅れず、テストも受けられる教室があるとよいと思う。タブレット授業だけでは、フォローに限界があるように感じる。
- ・市の適応指導教室が、街中3箇所集中しているため、もっと郊外に教室が分散しているともっと利用しやすい。

■習熟度別の充実について

- ・学力別のクラスを設けて、個々のレベルに合った学習ができることが理想だと思う。
- ・数学の授業を習熟度別の少人数クラスに分け、学習塾に行かなくても基礎学力の定着を図れるようにしていただきたい。
- ・義務教育であっても学力別のクラスがあっても良い。生徒の求める授業の質に合わせて教員が授業を進めることができ、生徒の能力向上につながる。高校は学力別専門別だが、高校よりも小中学校の方が子どもにとって能力向上に大切な時間であるため、「そんな問題もうわかっている」とか、「その問題をもっと説明して欲しかった」とかが減り、教員と生徒ともに時間を効果的に使えるのではないか。
- ・習熟度別の授業をメインにして欲しい。実技を伴う体育や音楽も習熟度別の方が苦手な人も気楽に授業に参加でき、レベルにあった事に劣等感少なくトライできると思うし、得意な人の集まりの方がより高度な事にチャレンジできると思う。

■学校規模の適正化について

- ・豊橋市の小学校は地域のコミュニティの中心となっているので、小規模でも意味があると思うが、中学校では学力をつけ、将来の選択の幅を広げるうえで多くの経験ができるとうい。ある程度の規模がないと諸活動に制約が出てくるので、中学校の統廃合を進めるべきである。
- ・小規模は田舎の特徴ですが子どもたちは豊かに育っている。少ない事で負担は大きい、無理に統合する事も負担と考える。校長をはじめ教員が生徒の名前を知っている環境は子どもにとっては1番の環境で、社会性、コミュニケーションを学ぶことのできる場であると思う。

- ・担当教科の教員が確保され、安心して生徒が授業を受けることができる環境にするためには、小中一貫校も含めて、ある程度まとめて学校数を減らし、小学校も中学校も教えられる先生を配置する方法が効率的だと思う。
- ・小規模校が廃校になるのは、地元の人間にしたら寂しいことなので、統合した学校の良さや、行事を受け継ぐような形にしてもらいたい。

■その他

- ・子どもが安心安全に学校生活を送れる環境の構築
- ・校則の見直し
- ・体験活動の充実
- ・学習支援の充実
- ・通学の安全確保

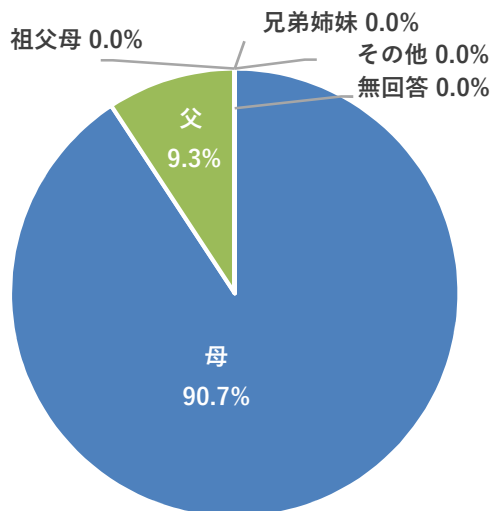
【参考】就学前児童保護者調査結果

1. 対象者等

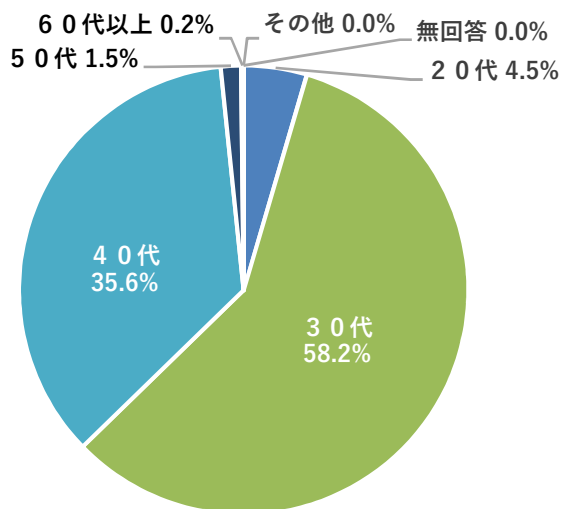
| | |
|------|-------------------------------------|
| 調査対象 | 新年度に市内小学校に就学を予定する児童の保護者全世帯（3,100世帯） |
| 調査期間 | 就学時健康診断実施日～令和4年11月11日（金） |
| 調査方法 | 就学時健康診断の際に配付・電子申請システムによる回答 |
| 回収状況 | 550件（回答率：17.7%） |

2. 調査結果

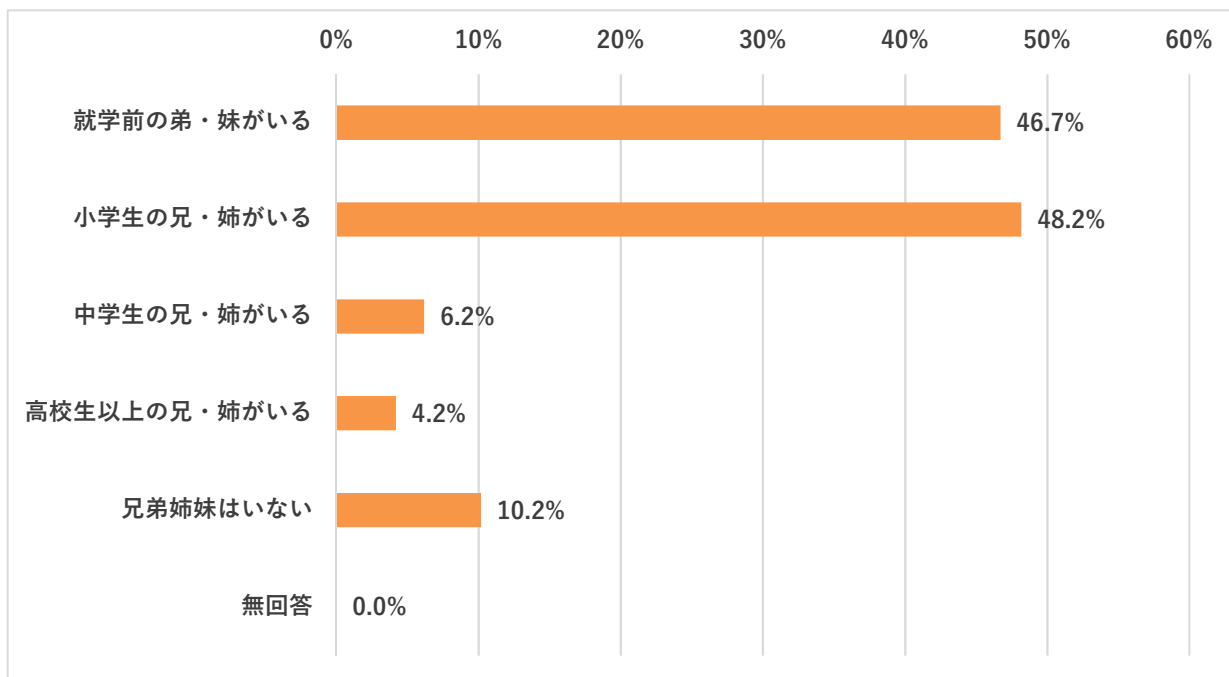
問1 続柄（n=550）



問2 年齢（n=550）



問3 兄弟構成（n=550）



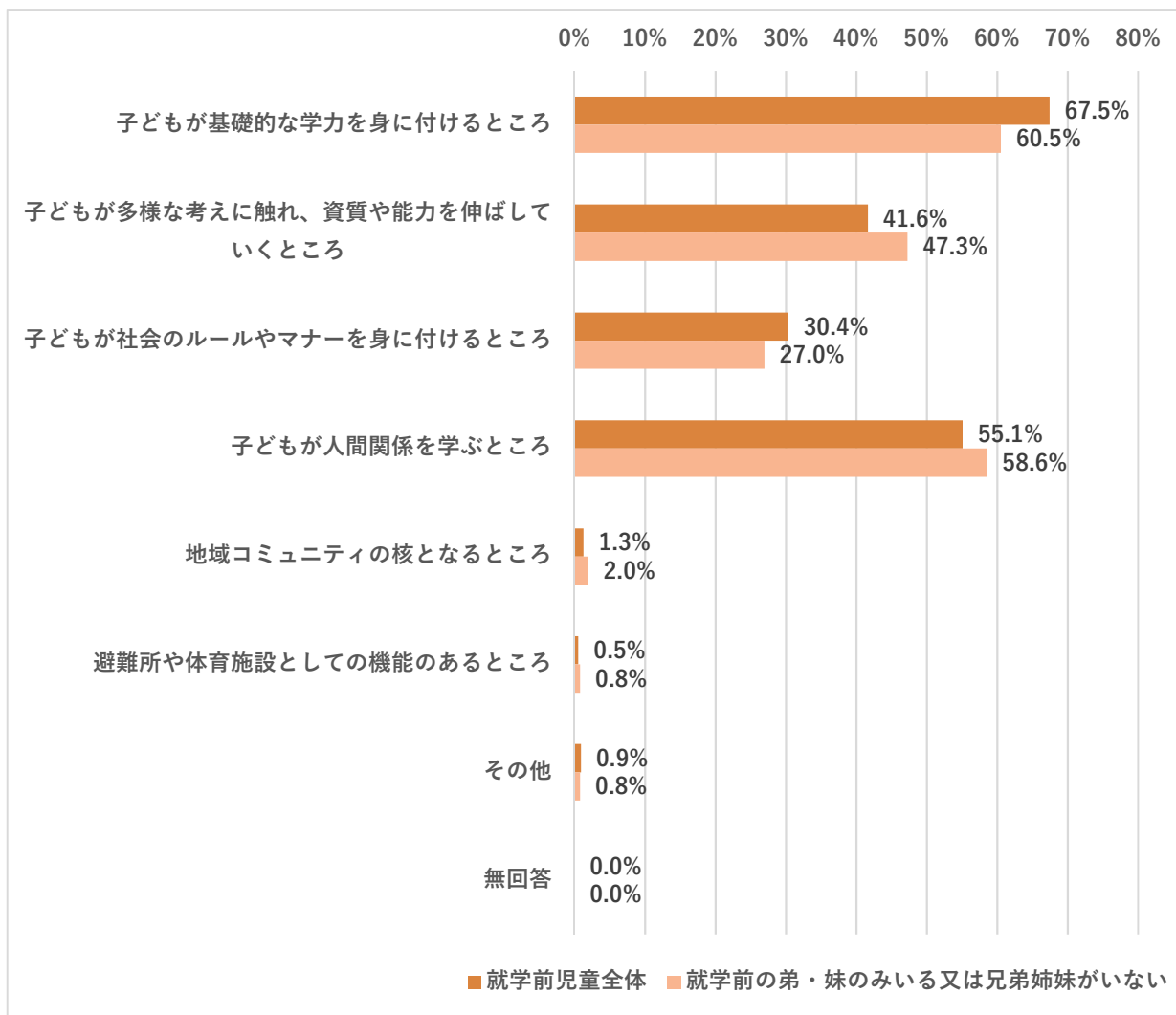
問4 学校名（n=550）

（略）

問5 学校はどのようなところであるべきだと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

小中学校と同様に、就学前児童全体では、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」の割合が67.5%と最も高く、次いで「子どもが人間関係を学ぶところ」が55.1%、「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」が41.6%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

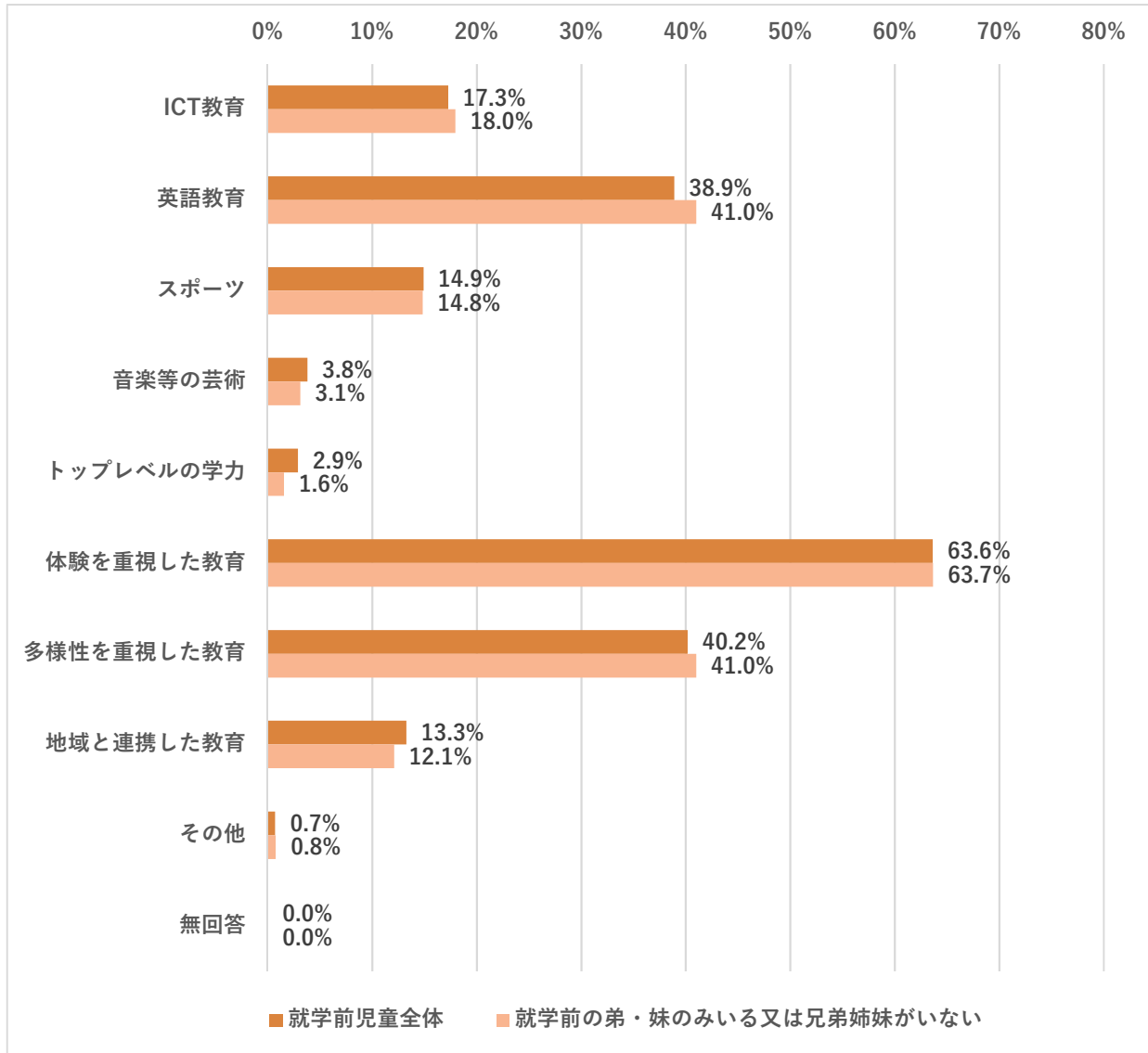
就学前児童全体（n=550）、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない（n=256）



問6 どのような特色ある教育を受けさせたいですか。(最もあてはまるもの2つまで)

小中学校と同様に、「体験を重視した教育」の割合が63.6%と最も高く、次いで「多様性を重視した教育」が40.2%、「英語教育」が38.9%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

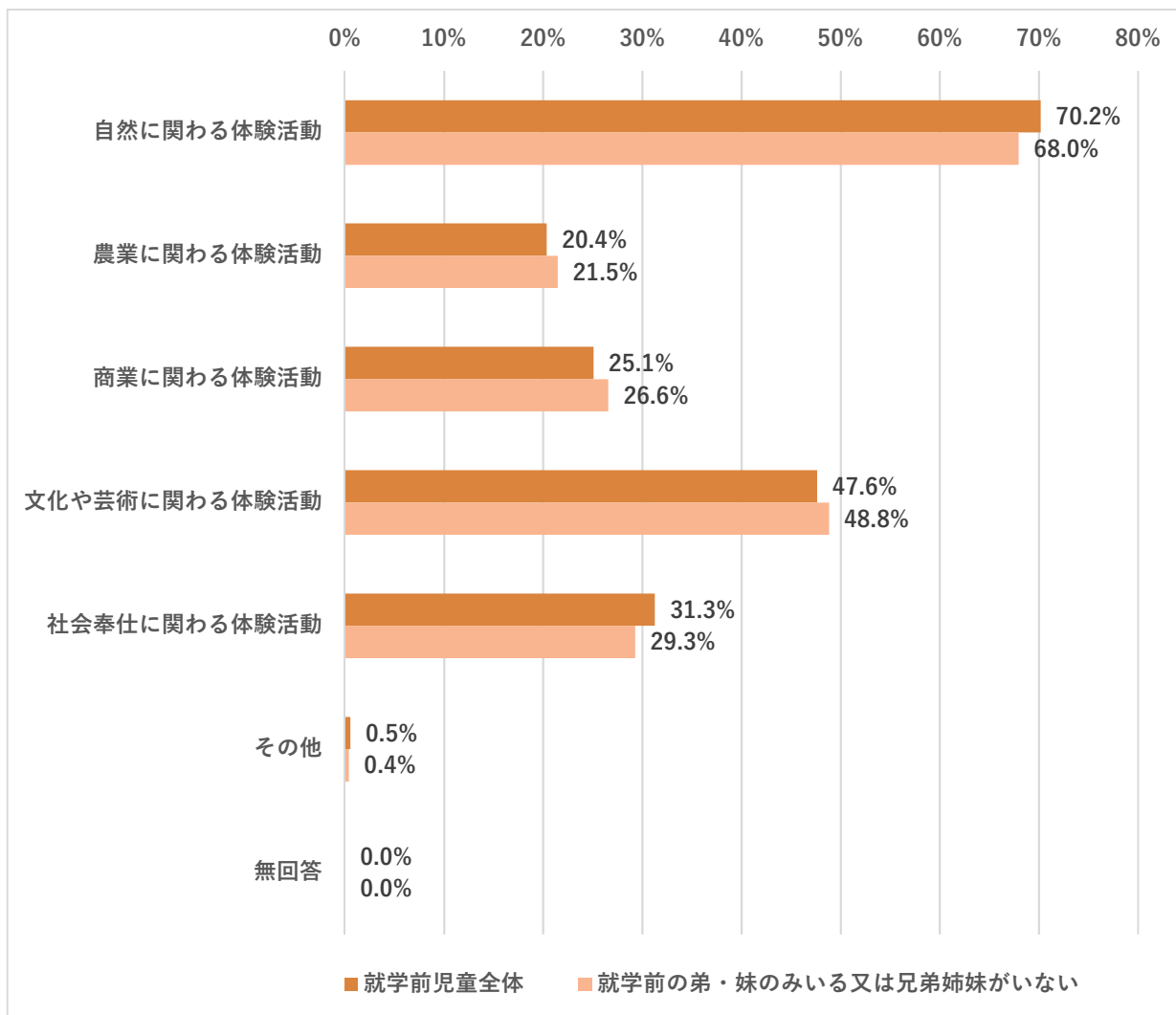
就学前児童全体（n=550）、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない（n=256）



問7 学校においてどのような体験活動が実施されることを期待しますか。(最もあてはまるもの2つまで)

小学校と同様に、「自然に関わる体験活動」の割合が70.2%と最も高く、次いで「文化や芸術に関わる体験活動」が47.6%、「社会奉仕に関わる体験活動」が31.3%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

就学前児童全体 (n=550)、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない (n=256)



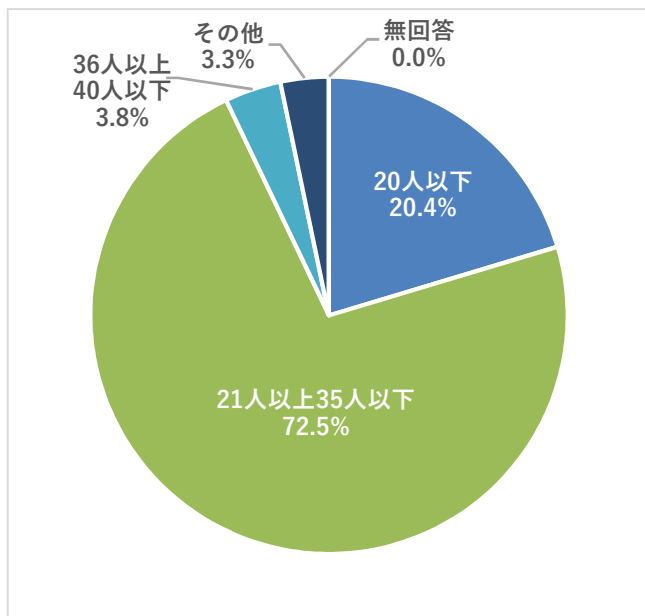
問8 1学級の児童数と1学年の学級数について適当な数はどのくらいだと思いますか。

1. 1学級の児童数

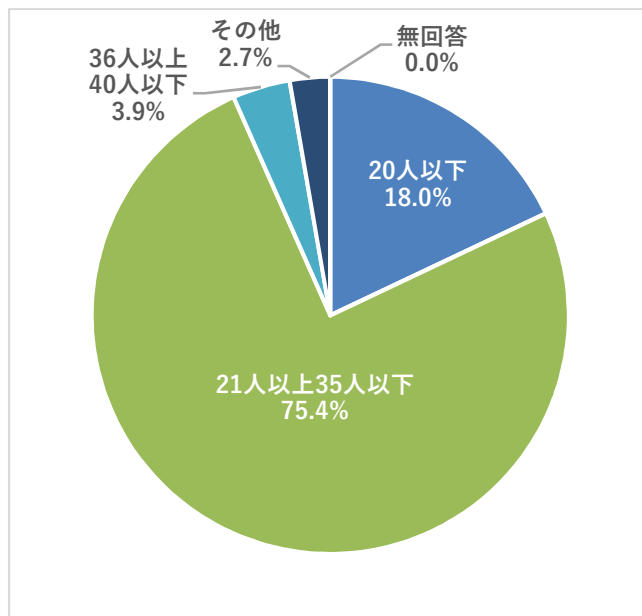
小中学校と同様に、「21人以上35人以下」の割合が72.5%と最も高い割合を占めています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

就学前児童全体（n=550）、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない（n=256）

<就学前児童全体>



<就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない>

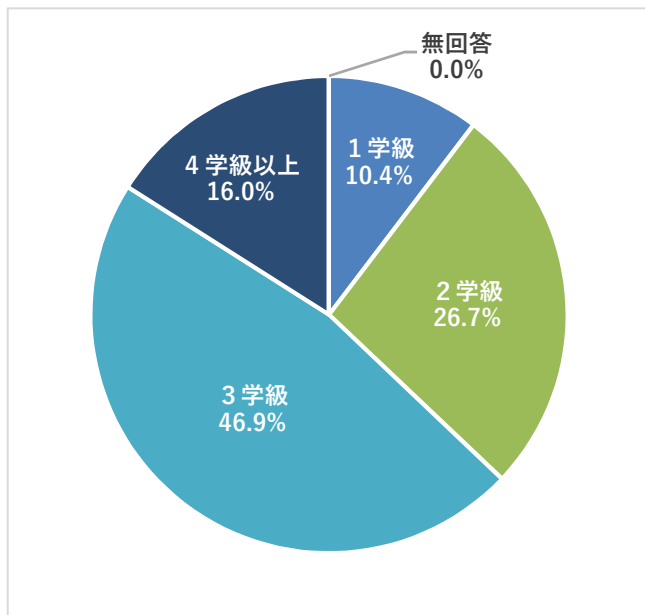


2. 1学年の学級数

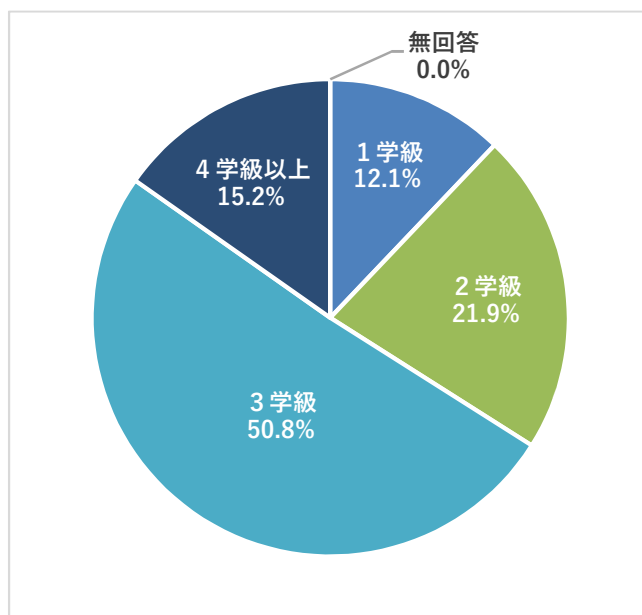
小学校と同様に、「3学級」の割合が46.9%と最も高い割合を占めています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

就学前児童全体（n=550）、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない（n=256）

<就学前児童全体>



<就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない>

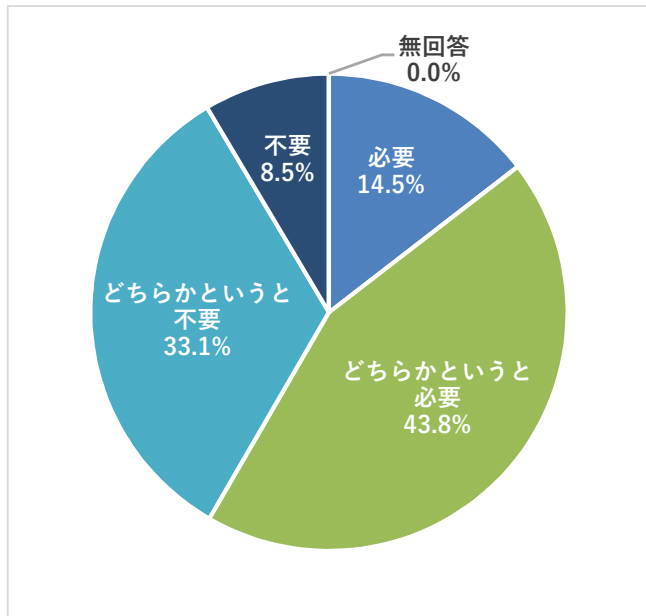


問9 小規模校対策（例えば学校の統合）は必要だと思いますか。

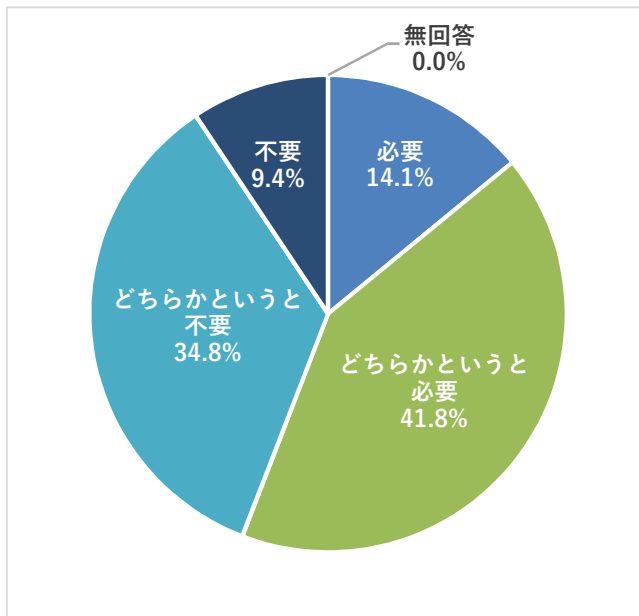
「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合が58.3%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

就学前児童全体（n=550）、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない（n=256）

<就学前児童全体>



<就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない>

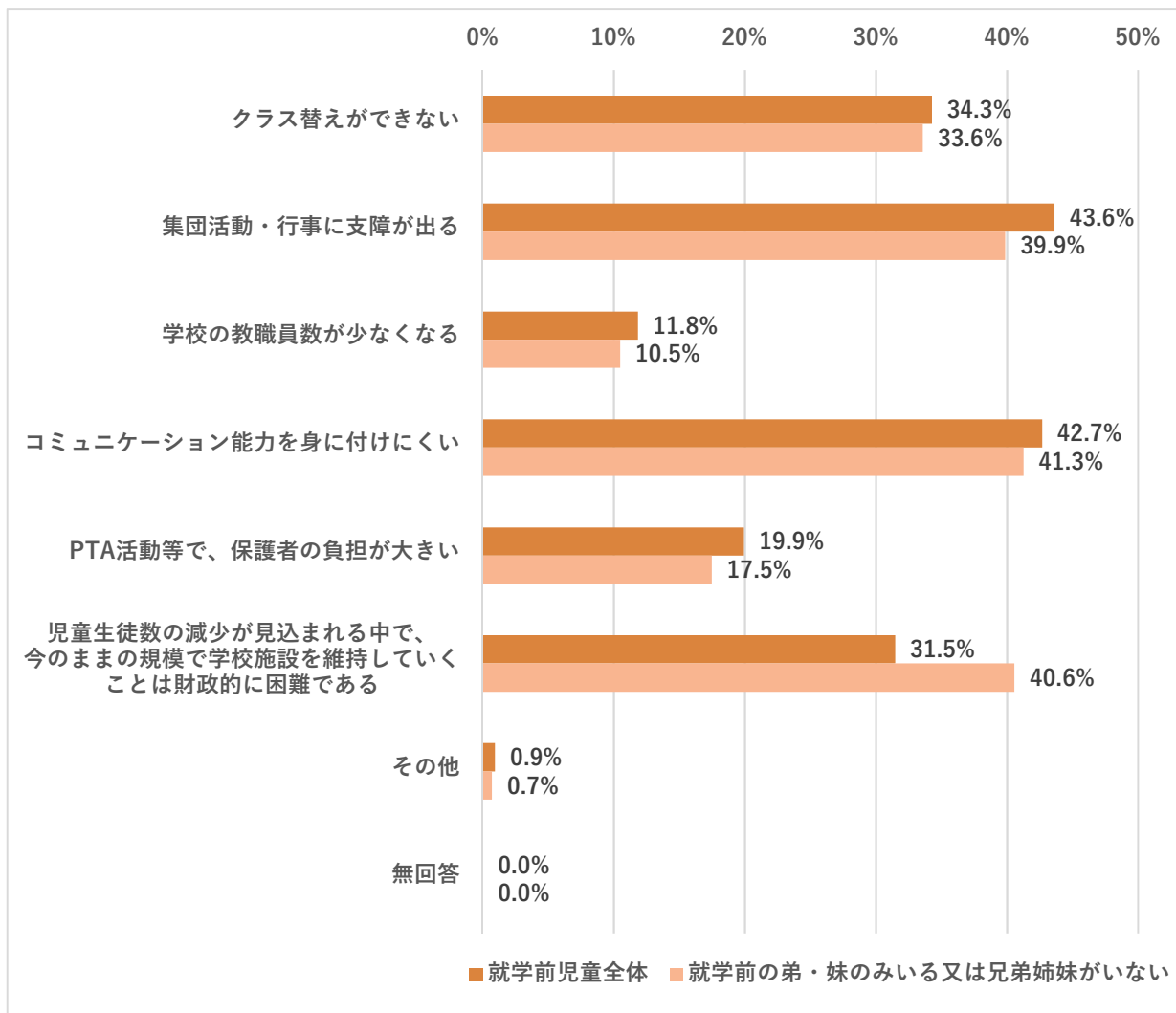


問10 小規模校対策がなぜ必要だと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

(問9で「必要」または「どちらか」というと必要」を選択した場合のみ回答)

小中学校と同様に、「集団活動・行事に支障が出る」の割合が43.6%と最も高く、次いで「コミュニケーション能力を身に付けにくい」が42.7%、「クラス替えができない」が34.3%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者については、「コミュニケーション能力を身に付けにくい」の割合が41.3%と最も高く、次いで「児童生徒数の減少が見込まれる中で、今のままの規模で学校施設を維持していくことは財政的に困難である」が40.6%、「集団活動・行事に支障が出る」が39.9%となっています。

就学前児童全体 (n=321)、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない (n=143)

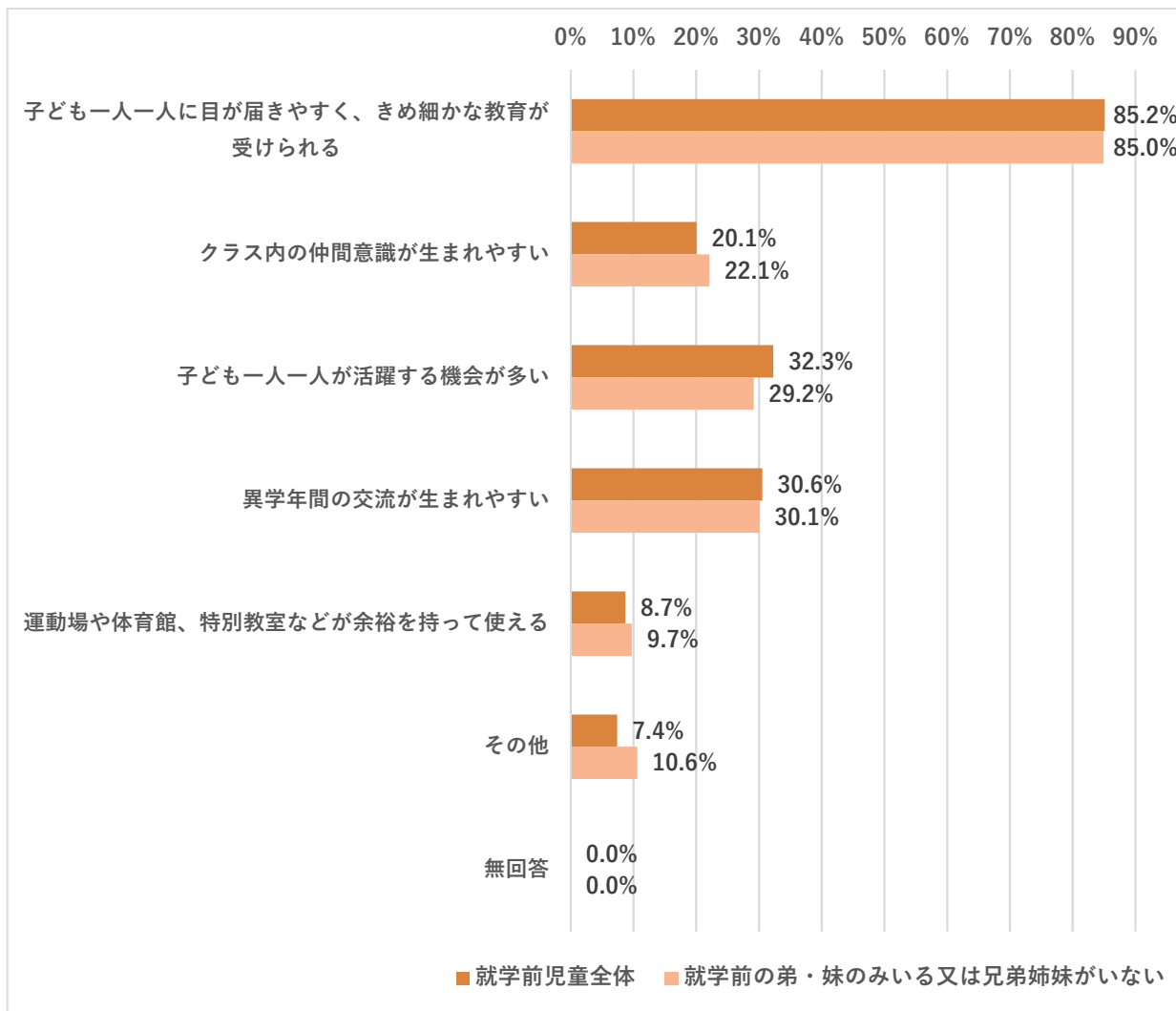


問 11 小規模校対策がなぜ不要だと思いますか。(最もあてはまるもの2つまで)

(問9で「不要」または「どちらか」というと不要」を選択した場合のみ回答)

小中学校と同様に、「子ども一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。」の割合が85.2%と最も高く、次いで「子ども一人一人が活躍する機会が多い」が32.3%、「異学年間の交流が生まれやすい」が30.6%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

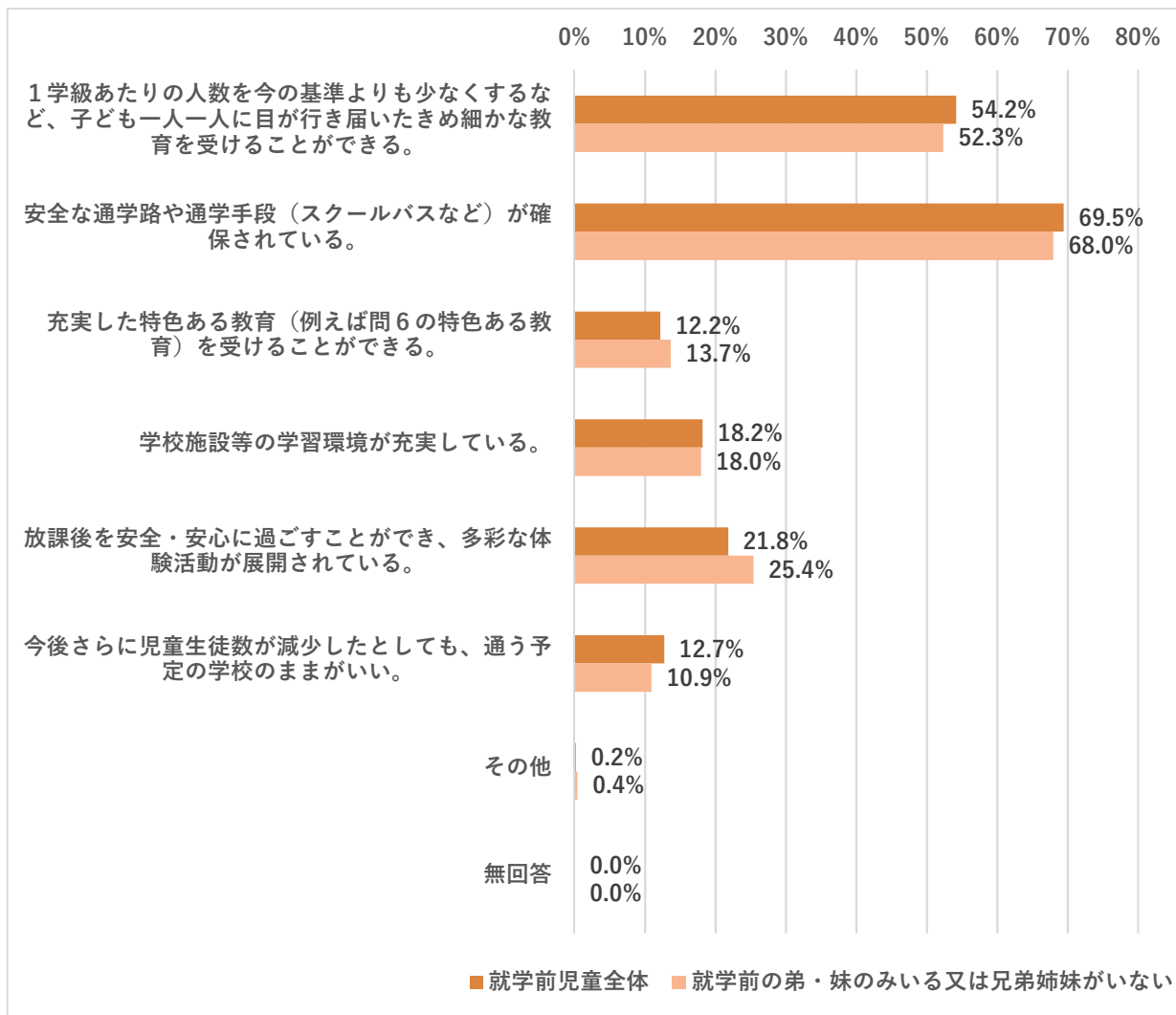
就学前児童全体 (n=229)、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない (n=113)



問12 どのような環境が整っていれば、お子さんが通われる予定の学校が別の学校と統合し新たな学校になってもよいですか。(最もあてはまるもの2つまで)

小中学校と同様に、「安全な通学路や通学手段(スクールバスなど)が確保されている。」の割合が69.5%と最も高く、次いで「1学級あたりの人数を今の基準よりも少なくするなど、子ども一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育を受けることができる。」が54.2%となっています。また、就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない児童の保護者についても、就学前児童全体とほぼ同様の割合となっています。

就学前児童全体 (n=550)、うち就学前の弟・妹のみいる又は兄弟姉妹がいない (n=256)



3. 自由意見（152件、主な意見を抜粋）

■多様性を重視した教育、個性を伸ばす教育について

- ・個性や特性、家庭の育て方等、多様化している子どもたちを、教員も子どもたちもみんなが当たり前で温かく受け入れる学校環境になっていくことを望む。また、全員が同じことをできるようという昔ながらの教育ではなく、一人一人に合わせたのびのびと子どもが育っていく学校環境を望む。
- ・多様な考えに触れられる機会を増やしてほしい。子どもたちがそれぞれ、自分の「好き」を見つけたり、得意な部分を伸ばしたりできるような教育を望む。
- ・発達障害の有無に関わらず、集団生活に適応しにくい子にも寄り添った支援や教育を望みます。
- ・学校における多様性のあり方は、通常学級にさまざまな障害、困難をかかえる子どもが混在することだと思うので、教職員の追加配置や少人数学級の実現、何よりも学校教育にかかわる人たちの意識改革を行い、共有していくことなくして実現不可能である。

■少人数学級、複数担任制について

- ・子どもには、先生がなるべく一人一人のことを見てあげられる環境で過ごしてほしい。困っている子がいたら、友達や教員の誰かが気づいて助け合える環境であってほしい。
- ・子ども一人一人にきめ細かな指導をするためには、1学級の児童数を少なくすること、もしくは普通学級もすべてのクラスで複数担任制にすることが一番必要だと思う。教員も少しでも多忙化が解消され、発達障害やグレーゾーンの形も含め、いろいろな個性を持つ子どもたちに対応する余裕が生まれるのではないかな。
- ・教員の熱意が伝わるように20人程度の少人数クラスが実現できるとよい。また、同じ教員が1、2年と2年間や3年間など担当してくれると、より先生との絆が深まり、充実した授業となるのではないかなと思う。

■教員の働き方改革、教員の資質の向上について

- ・教員の残業などの負担がなく、子どもたちに接することのできる環境が整っているのが一番だと思う。教員の心に余裕が生まれると、潤った教育に結び付くのではないかな。
- ・教員の質の向上と人数（複数担任制）を確保することで、教員がある程度自由に教育できる環境ができたと思う。
- ・様々な経歴の大人の考えに触れる機会を作るため、社会人経験の豊富な教員を増やして欲しい。

■学校規模の適正化について

- ・学校というのは地域とのつながりもあり、基本的には遠くの学校と統合するべきではない。スクールバスに必ず乗ることができればまだ良いが、それでも子どもと保護者にとって負担になるようであれば望ましくない。行事などのとき徒歩での来校を求められるため、遠方だと難しい。ただ、1学年に3クラスほどあるのが行事やクラス替えにおいても理想的と考えているので、その点においては統合もやむなしという見方も理解できる。
- ・その地域の学校が無くなるということは地域にとっても子どもたちにとっても、とても大きなことだと思う。子どもが通う学校は、地域の人たちのサポートが手厚く、学童などで温かく見守ってくれており、こういった地域の良さを生かす工夫をしながら町おこしをしていけるように支援してもらい、学校を継続してほしい。

- ・単学級や少人数の良さもあることは感じてはいるが、多感な時期に人間関係などで悩むこともあることを思うと、クラス替えができる人数がいることが理想だと思う。

■体験活動の充実について

- ・今後、多様な働き方が出てきて、様々な考え方も必要になるので、将来を見据えた特別授業を取り入れてほしい。子どものうちにいろいろな体験が必要だと感じ、感性が磨かれていければと思う。
- ・地域社会のフィールドでさまざまな分野の体験や学び、積極的に参加ができるとより心身ともに充実した成長を望めると思う。

■その他

- ・子どもが安心安全に学校生活を送れる環境の構築
- ・通学の安全確保
- ・英語教育の充実

